

332.2255

M178A



0022349000

0022349-000

332.2255-M178s

齊北·平齊沿線經濟事情

鐵路總局

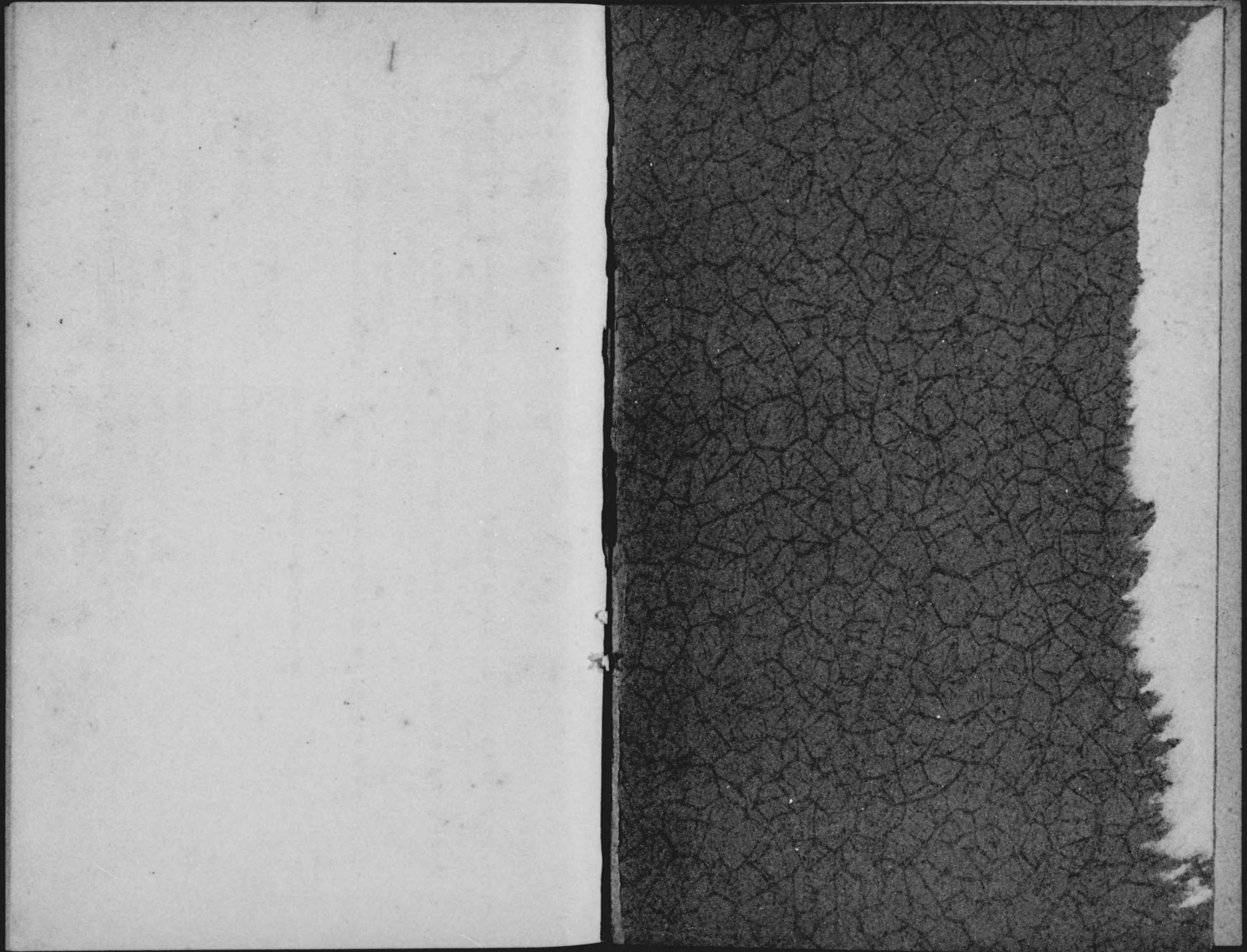
1935

ADC

康德二年四月

齊北·平齊沿線經濟事情

鐵路總局



332.2255

M78A

はしがき

本書は齊北(齊々哈爾—北安鎮二三〇杆)、平齊(四平街—齊々哈爾五七一杆)沿線十一縣の政治、經濟事情の綜合であつて、専ら洮南鐵路局調査股の資料蒐集に成り、之に幾分訂正を加へたものである。

本書の數字は大同二年及康徳元年のものである、資料に乏しき爲め内容の十全亦期し難く、調査の不備は總局に於て幾分訂正を加へたが、而も完備したものではない。之等は追而補正するつもりである。

資料索引は滿洲事情案内所を煩はした。

調査諸表の地積及度量衡の單位は當該各地方に於て使用せるものである。尙左記日滿比較表を掲げて便に供することとした。

滿洲單位

日本換算

- 一里 五・二七七町(即ち日本の一里は六・八一七支里)
- 一畝(中畝二八八弓、七二〇〇平方尺) 七・四三四畝
- 一响(中畝十畝) 七・四三四反
- 一方里 三三・四五四町

尙、斗、尺、斤は各縣に於て相違あり、日滿の比較を左に掲ぐ。

縣名	滿洲一斗	滿洲一尺	滿洲一斤
龍鎮	一・五五(日斗)	一・二〇(日尺)	一・四五(日斤)
克山	一・五五	一・一〇	一・四五
訥河	二・三四	一・二〇	一・一六



齊北·平齊沿線經濟事情

目次

第一章 自然及人文

第一節 地勢 氣象 面積及戶口

地勢.....一

氣象.....三

面積及戶口.....七

第二節 政治 治安及文化

政治.....八

治安.....八

地方官衙.....九

各縣財政.....九

治安.....一五

教育.....一六

宗教.....一六

宗教.....一六

第二章 交通 運輸及通信

第一節 交通

交通.....六六

運輸.....六七

通信.....六七

齊北、平齊沿線經濟事情

龍江	一·五五	一·二〇	一·四五
泰來	一·六九	一·二八	一·四四
鎮東	一·三〇	一·二四	一·三四
洮安	二·〇〇	一·二四	一·四五
洮南	二·六〇	一·二五	一·四三
遼源	一·九二	一·二五	一·四二
梨樹	一·八六	一·二五	一·四五
昌圖	一·六六	一·二五	一·四七

康德二年四月

鐵路總局

齊北·平齊沿綫經濟事情	六七
交通路概況	六九
各縣交通路	八〇
交通機關	八〇
各縣荷馬車	九二
同 自動車	一〇二
航空路	一〇四
通 信	一〇四
郵 政	一〇四
電 信	一〇八
電 話	一一三
第四節 運送及旅館	一一七
各縣運送業	一一七
搬出經路	一二一
旅 館	一二七
第五節 齊北·平齊綫概況	一三四
名稱變遷	一三四
建設沿革	一三四
營業狀況	一三六
附帶事業	一四〇

第三章 商工業及金融

第一節 商 業	一四三
商業概況	一四三
各縣商況	一四四
同 商業者調	一七八
同 商業機關	一七八
農產品之取引事情	二一九
第二節 工 業	二三五
工業概況	二三五
各縣工業	二三七
同 工業者調	二四〇
第三節 電氣事業	二六三
第四章 金融 物價 勞働	二六七
第一節 金 融	二六七
金融概況	二六七
國幣流通狀態	二六八
各縣金融	二七〇

第二節 物價

二八〇

第三節 勞働者

三二二

勞働賃銀

三二二

勞働者狀態

三一三

苦力移動狀態

三一七

第四章

第五節 農畜鑛水産

三三三

第一節 農産

三三三

第二節 畜産

三四五

第三節 鑛産

三五三

第四節 水産

三五五

資料索引

三五六

一七八

一四四

一四三

一四三

一四三

齊北・平齊沿線經濟事情

第一章 自然及人文

第一節 地勢 氣象 面積及戸口

地勢

一、山脈

當鐵道沿線及隣接地域には次の如き山脈起伏す、

西北—大興安嶺山脈

東北—小興安嶺山脈

西南—松嶺嶺山々脈

二、河川

河川は夫々上記の各山脈より其の源を發し、平原低地を辿り海口に向ふものにして次の如き幹、支流あり。

1 嫩江

其の源を小興安嶺に發し、流域各地に於ける支流を合流し齊々哈爾平野を通過し、吉林に入り松花江と合流日本海に入る。

第一章 自然及人文

其の支流

- 雅魯河
- 努敏河
- 甘河
- 訥謨爾河
- 呼裕爾河
- 洮兒河
- 歸流河

之等の支流を合流の上江橋を横断東流す。

2 遼河

大興安嶺の南部に其の源を發し、興安西省熱河省境に添ふて鄭家屯を経て南流營口にて渤海に注ぐ。

其の支流

- 老哈河
- 西拉木倫河
- 新開河

三、平野

平野は即ち上記各河川に沿ふて展開され、滿洲國中央大平原の西側部を爲すも、齊々哈爾以南の各地は、砂地乃至は曹達分多く耕地に不向きの地點多きに不拘、齊北沿線各地は腐植質黒土の沖積平野にして土地沃肥滿洲國內特産物屈指の産地として名あり。

氣象

洮南鐵路局管下鐵道は北緯四三・一五より南下同四八・一〇に及ぶ東經一二三・五より一二三・五の間に於て南北に亘る關係上、最南端四平街と最北端北安鎮は自から其の氣象に非常なる相違あり。今齊々哈爾、洮南、鄭家屯三地に就き其の氣溫を示せば次の通なり。

平均氣溫 (攝氏)	平均最高氣溫 (攝氏)	
	齊々哈爾	鄭家屯
一月	(一) 二〇・六	(一) 一八・〇
二月	(一) 一五・六	(一) 一三・八
三月	(一) 七・〇	(一) 二・九
四月	五・〇	五・八
五月	一三・六	一四・三
六月	一九・七	一九・七
七月	二三・三	二三・六
八月	二二・四	二二・三
九月	一三・六	一四・一
十月	四・三	六・二
十一月	(一) 八・六	(一) 五・八
十二月	(一) 一八・二	(一) 一四・九
平均最高氣溫 (攝氏)	(一) 齊々哈爾	(一) 鄭家屯
齊々哈爾	(一) 一四・三	(一) 一八・五
洮南	(一) 一四・三	(一) 一八・五
鄭家屯	(一) 一四・三	(一) 一八・五
齊々哈爾	(一) 八・四	(一) 四・六
洮南	(一) 六・九	(一) 四・六
鄭家屯	(一) 六・九	(一) 四・六

齊北平齊沿線經濟事情

月	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
平均最低氣温 (攝氏)	(一) 〇・一	一一・一	二〇・三	二五・九	二九・一	二七・二	二〇・二	一一・二	二・五	二・四
齊々哈爾	(一) 〇・一	一一・一	二〇・三	二五・九	二九・一	二七・二	二〇・二	一一・二	二・五	二・四
洮南	五・六	一四・〇	二一・三	二六・七	二九・七	二六・八	二二・一	一三・七	〇・五	八・八
鄭家屯	四・三	一四・四	二一・五	二七・五	二九・一	二七・三	二二・五	一四・一	三・六	六・八
齊々哈爾	(一) 二六・六	(一) 二二・三	(一) 一三・六	(一) 二・〇	(一) 五・九	(一) 一・八	(一) 一・七	(一) 一・五	(一) 一・七	(一) 一・七
洮南	(一) 二五・一	(一) 二一・〇	(一) 一〇・八	(一) 六・七	(一) 一・六	(一) 一・六	(一) 一・七	(一) 一・七	(一) 一・八	(一) 一・八
鄭家屯	(一) 二二・三	(一) 一九・二	(一) 九・一	(一) 〇・八	(一) 八・一	(一) 一四・四	(一) 一九・〇	(一) 一七・七	(一) 一〇・九	(一) 八・四
齊々哈爾	(一) 二六・六	(一) 二二・三	(一) 一三・六	(一) 二・〇	(一) 五・九	(一) 一・八	(一) 一・七	(一) 一・五	(一) 一・七	(一) 一・七
洮南	(一) 二五・一	(一) 二一・〇	(一) 一〇・八	(一) 六・七	(一) 一・六	(一) 一・六	(一) 一・七	(一) 一・七	(一) 一・八	(一) 一・八
鄭家屯	(一) 二二・三	(一) 一九・二	(一) 九・一	(一) 〇・八	(一) 八・一	(一) 一四・四	(一) 一九・〇	(一) 一七・七	(一) 一〇・九	(一) 八・四
齊々哈爾	(一) 二六・六	(一) 二二・三	(一) 一三・六	(一) 二・〇	(一) 五・九	(一) 一・八	(一) 一・七	(一) 一・五	(一) 一・七	(一) 一・七
洮南	(一) 二五・一	(一) 二一・〇	(一) 一〇・八	(一) 六・七	(一) 一・六	(一) 一・六	(一) 一・七	(一) 一・七	(一) 一・八	(一) 一・八
鄭家屯	(一) 二二・三	(一) 一九・二	(一) 九・一	(一) 〇・八	(一) 八・一	(一) 一四・四	(一) 一九・〇	(一) 一七・七	(一) 一〇・九	(一) 八・四

氣候は所謂大陸的にして寒暑の差甚しく、冬季は齊々哈爾地方に於ても最低(一)二八・九度を示し、十月上旬は河水結氷、四月中旬に入り解氷を見るを普通とす。

夏季は最高温度三二度内外に及ぶことあるも所謂大陸性氣候にて温度の高低甚しく、晝間は三〇度を上下するにも不拘、夜間は布圍を要する程に低下すること尠なからず。

降雨

一般に降雨少なきも六月より九月に至る間は比較的降雨多く、殊に降雨に際しては猛烈なる雷を伴ふ豪雨ある爲め、道路は一面の泥濘と化し人馬の往來難澁を極め、河川は氾濫田園を淹没する事稀ならず。

降雨日數

月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
齊々哈爾	三	三	四	四	七	二	三	二	九	四	四	五
洮南	四	三	二	三	八	一	三	一	五	三	三	二
鄭家屯	三	二	四	四	〇	〇	〇	三	九	五	三	二

降雨日數一年を通じ齊々哈爾方面八〇日、洮南方面七八日、鄭家屯七五日となる。

第一章 自然及人文

齊北・平齊沿線經濟事情

一六

開通縣	一三三、三八二	一五九、〇四六	四五、六六四	三一、九二五
遼源縣	二〇〇、七二五	二一三、七六〇	一三、〇三五	九、一二五
梨樹縣	六三六、四八七	六三六、四八七		
昌圖縣	七〇八、〇七五	七〇八、〇七五		

春耕資金

	大同二年	康德元年
龍江縣	三二五、四九五圓	九八、〇〇〇圓
訥河	二六六、〇五一	八〇、〇〇〇
克山	四三〇、八三九	二二九、〇〇〇
泰來	一八六、九四五	五六、〇〇〇
龍鎮	四七、六一	一四、〇〇〇
洮南	一〇〇、〇〇〇	一七八、九八九
洮安	八〇、〇〇〇	一四三、二〇〇
鎮東	九〇、〇〇〇	一六一、一〇〇
開通	五〇、〇〇〇	八九、五〇〇

但し奉天省分は前年度貸付額を本年貸付額より扣除貸與せり。

治安

沿線が北半舊黑龍江省内は叛將馬占山、蘇炳文の殘黨或は之と氣脈を通ずる兵匪非常に多く、其の南半は李海青其の他の反滿匪團が横行し、一時は治安の歸一する處を知らざる程なりしが、皇軍の貴き犠牲と滿洲國官憲の協力提携に依る獻身的討匪工作に依り、次第に其の効果を現し、殊に熱河征戰北支轉戰を分岐點とし一層顯著となり集團乃至政治思想的色彩を有するもの次第に其の影を没するに至れり。乍然依然弱小匪賊の横行頻發し地方治安機關の手薄なる地域の良民は之が爲め非常の脅威を蒙り、

安居樂業は到底望まれざる實狀に在りたる爲め、皇軍は日滿議定書に依り治安の安定を圖るを其の第一義とし滿洲國各機關と一體となり、中央治安維持會更に其の下に省治安維持會縣治安維持會を設け、滿洲國內治安機關の母體とし、大同二年七月より皇軍の分散配置を行ひ之を基幹とし、中央の定めたる治安維持に關する一般の方針と要綱に基き徹底的討匪工作の敢行に着手したり。

方針

要綱

- 一 匪賊の剿滅は討伐を以て主眼となし之に依りて勢力の減殺された小匪は各自衛團に依り其の跳梁の餘地なからしめ其の自滅を策す。
 - 二 兵匪の歸順は降伏の意味に於て之を許すも之を滿洲國軍警又は自衛團に改編するは絶対に爲さざる事。
 - 三 民間に散在する兵器の調査、收納に努む
 - 四 剿匪工作に伴ひ宣傳並政治工作に依り思想を善導し生業を附與し以て人心の安定を策し王道政治の徹底を期す。
 - 五 滿洲國側軍警の編制裝備を適切にし給與を洽ねからしめ素質の改善を圖る。
- 然して治安維持會を主體とする治安工作は漸次豫期の効果を擧げ得たる爲め康德元年四月より従前の形式に幾分の改變を爲し其の使命を全々滿洲國側機關に移譲せり。

改變後に於ける治工作の目標

- 一 剿 匪
- 二 武器の調査と回收
- 三 警察機關の整備鞏化

第一章 自然及人文

一七

- 四 行政警察事務能率の増進
- 五 素質裝備の改善
- 六 保甲制の確立運用
- 七 自衛團の整備鞏化
- 八 通信交通機關の改善

最近に於ける匪賊狀況(康徳元年六月分)

一 舊黑龍江省

江省内に於る匪賊は十四、十六兩師團其他各治安機關の相つゞ徹底的討伐の爲め漸次減少し大同二年十月約一二、〇〇〇人最高とし、康徳元年四月は僅かに四、〇〇〇人台に減少せしむるを得たり。

二 奉天省は交通其他の關係上討伐容易なる爲め山岳地方を除きては其の匪數上少く、只三角地帯或は東邊道は其の地形の關係上今尙相當匪賊の出沒多し。

元年六月中出現回数 七〇九回
延 人員 三三、六四四名

(實數は一〇、一一〇名)

治安維持會

一 機關及命令系統

中央治安維持會の下に

- 1 東防衛地區
- 2 西防衛地區

3 南防衛地區

4 北防衛地區

の四大地方治安維持會を置き更に各防衛地區の下に中間地區治安維持會、其の下に縣治安維持會を置き中央防衛—中間—縣の命令指揮系統に依り治安工作に従事す、

二 構成人員

防衛地區

委員長 一名

委員 日滿各機關主要者三二名

顧問 日滿首腦機關代表者八名

中間地區

委員長 中間地區駐屯旅長

委員 地區内軍警、官吏主要者、地方有力者若干

顧問 日滿軍警首腦者若干

縣

委員長 縣長

委員 縣日滿系主要官吏及附近滿洲國軍將校、民間有力者若干

顧問 日滿軍警首腦者若干

沿線の治安維持會

龍鎮縣 縣治安維持會

- 克山縣 縣治安維持會
- 訥河縣 縣治安維持會
- 龍江縣 縣治安維持會
- 齊々哈爾市 北防衛地區治安維持會
- 昂々溪 特別區治安維持會
- 泰來縣 縣治安維持會
- 洮安縣 縣治安維持會
- 洮南縣 洮遼地區治安維持會
- 開通縣 縣治安維持會
- 遼源縣 縣治安維持會
- (以上北防衛地區)
- 梨樹縣 縣治安維持會
- 昌圖縣 縣治安維持會
- (以上南防衛地區)

各縣治安

龍鎮縣

縣の東部一帯は高地不毛の地域或は山林地帯なる爲匪賊の根據地たるを得ず従つて匪賊の存在横行を見ず。只克山、通北、德

都を結ぶ三角地帯は土地肥沃にして幾分匪賊の據るべき好地形に在るも日滿兩軍及其他各機關の積極的討匪工作の結果として有力匪賊は勿論集團的匪賊の横行は殆ど其の影を没したり。

匪首「奉好」以前本縣に根據を有する有力匪團の頭目なりしが日滿兩軍の數次の討伐に遭ひ部下は全く四散し去り、現在に於ては彼の部下として行動を共にするは僅かに二、三〇名に不過乍然時々各地に散居する少數部下と連絡を取り地方に於ける治安擾亂を爲す恐れ有り。

彼等の武器は不揃で長銃或は拳銃及び騎馬を以てす

根據地 克山、通北、德都を結ぶ三角地帯

治安機關

一 自衛團

- 名稱
- 北安鎮自衛團
- 財字二、三井自衛團
- 天字七井自衛團
- 天字一、二、三、四自衛團
- 天字八、九自衛團
- 孝字二井自衛團
- 天字一三、一四自衛團
- 天字一一、一二井自衛團
- 訓農字六二井自衛團
- 務字六井自衛團
- 龍鎮城自衛團

第一章 自然及人文

龍鎮外自衛團

大蓮寺自衛團

二 警察(司法、行政警察)

名稱

北安鎮警察署

龍鎮警察署

孫家船警察公署

三 警察隊(討匪)

名稱

北安鎮警察隊

龍鎮警察隊

克山縣

嘗ては馬占山其の他の反滿抗日兵匪の根據地たりし關係上、一時は收拾し得ざる状態に陥りたるも、日滿兩國軍隊並其の他各機關の積極的討匪工作進行の結果は、事變前の状態以上の平和郷を招來し、集團匪乃至は反滿抗日的色彩を有する匪團は其の影を没するに至りたり。

匪首名 天江好

部下數 二〇餘名

裝備 騎馬、長銃、拳銃二〇餘挺を所持す

根據地及勢力範圍 克山縣北興鎮西北一帶の地域

匪首名 不詳

部下數 三〇餘名

裝備 騎馬、雜銃三〇餘挺を所持す

根據地及勢力範圍 克山縣富海站運北地方一帶の地域

匪首名 大英字

部下數 一〇餘名

裝備 騎馬、長銃六挺を所持す

根據地及勢力範圍 克山烏不金河口一帶の地域

匪首名 金龍

部下數 五〇餘名

裝備 騎馬、其他不明

根據地及勢力範圍 元來拜泉縣を其の根據地とし居りたるも、當今克山南方三〇支里二道溝方面に出沒するに至りたり。

治安機關

一 自衛團

名稱

第一區自衛團

第二區自衛團

第三區自衛團

第四區自衛團

第五區自衛團

第一章 自然及人文

二 警 察(城市警備)

名 稱

- 城區警察署
- 奉安鎮警察署
- 北興鎮警察署
- 西城鎮警察署
- 通寬鎮警察署

三 公安隊(討匪)

名 稱

- 警察第一中隊
- 警察第二中隊
- 警察第三中隊
- 警察第二中二小隊
- 警察第三中二小隊
- 警察第三中二小隊

訥 河 縣

従前は相當兵匪の被害あり、多數住民は他に避難し、縣政は衰退の極に達したるも、其の後日滿軍並に其他各機關の討匪工作其の功を奏し、有力匪團の存在は絶無となり、僅かに二、三〇より成る微弱匪賊の出現を見る程度に至り現在極めて平穩。

匪首名 天江好

部下數 二〇餘名

裝 備 長拳銃二〇餘を携行

根據地勢力範圍 嫩江縣南區地に本據を有し訥河東南方を其の勢力範圍として横行す。

治 安 機 關

一 自衛團

曾つて人員四、八二三人在りたるも治安維持會の手に依り整理され現在の數は警察隊に編入を爲すべき二三八人を除き全部解散せり。

二 警 察(城市警備)

名 稱

- 城區警察署
- 駐縣分駐所
- 東門分所
- 南門分所
- 西門分所
- 北門分所
- 拉哈警察署

三 警察隊(討匪)

名 稱

- 警察隊部
- 警察一中隊三小隊
- 二中隊一小隊
- 一中隊二小隊
- 一中隊二小隊一分隊
- 一中隊一小隊

- 二中隊三小隊
- 二中隊三小隊一分隊
- 二中隊二小隊一分隊
- 二中隊二小隊

龍江縣

齊々哈爾市

當市には日本軍、滿洲國第三軍管區司令部等置かれ居る關係上他の如何なる地よりも平穩無事にして未だ匪賊の襲撃を受けたるが如き事實なし。乍然支那側密偵、反滿抗日的連絡者乃至は共產黨關係者等あり、滿洲國の内部的擾亂を企てる者入り込み居るも大なるものなし。

匪首名 仁義、海交

部下數 四〇餘名

裝備 騎馬各種銃器四〇餘挺

根據地 省城東南方八〇餘支里家窩堡附近

匪首名 金然(蒙匪)

部下數 四〇餘名

根據地 富拉爾基附近

嘗て碾子山驛附近に於ける北鐵列車襲撃を爲したる事あり。

治安機關

齊々哈爾

一 自衛團

名稱

- 第一自衛團
- 第二自衛團
- 第三自衛團
- 第四自衛團
- 第五自衛團

二 警察(城市警備)

名稱

- 北區警察署
- 中區警察署
- 南區警察署
- 東區警察署
- 水上警察署

三 警察隊(討匪)

名稱

警察隊

龍江縣

一 自衛團

名稱

- 龍江縣霍托氣警察署自衛團
 - 龍江縣回子房警察署自衛團
 - 龍江縣臥牛吐警察署自衛團
- 第一章 自然及人文

齊北・平齊沿線經濟事情

- 龍江縣吉斯保警察署自衛團
- 龍江縣李三店警察署自衛團

二 警察(城市警備)

名稱

- 龍江縣公署警務局
- 龍江縣霍托氣警察署
- 龍江縣回子房警察署
- 龍江縣臥牛吐警察署
- 龍江縣吉斯保警察署
- 龍江縣李三店警察署

三 警察隊(討匪)

名稱

- 龍江縣警察中隊部
- 龍江縣警察第一小隊
- 龍江縣警察第二小隊
- 龍江縣警察第三小隊
- 龍江縣警察第四小隊
- 龍江縣警察第五小隊

泰來縣

日滿軍隊及其の他治安機關の獻身的努力の結果、反滿抗日匪賊或は鐵道破壞、政治組織の顛覆を企圖するが如きもの一掃を見目は單なる物取り強盜の如き鼠賊の出沒を間々見る程度なり。

尙本縣には最近迄鐵道を中心とし其の西側には占北國、五龍、北海、明君、大國、一支鷄、青山好、保國、權國、東側には雙榮

西來順の小匪首ありて、横行掠奪を繰返せるも現在は殆ど其の影を沒したり。

匪首名 占北國

部下數 一〇〇名

裝備 騎馬、雜銃百餘を有す

匪首名 青山好

部下數 若干

治安機關

一 自衛團

名稱

- 城區第一保
- 第二保
- 第三保
- 第四保
- 第五保
- 第六保
- 第七保
- 第八保
- 街基鎮自衛團第一保
- 第二保
- 第三保
- 塔子城自衛團第一保
- 第二保

第一章 自然及人文

- 第三保
- 第四保
- 江橋鎮自衛團第一保
- 大新屯自衛團第一保
- 第二保

二 警 察(城市警備)

名 稱 城區警察署

三 公安隊(討匪)

名 稱 警察隊

鎮 東 縣

縣境には絶えず小匪團在りて他縣より追撃せらるゝ時本縣内或は安廣、洮安縣境に遁入する關係上其の掃蕩には比較的苦心を爲したるも、其の後治安工作の圓滿なる進捗に連れ之等小匪は據る可き地點を失ひ、四散し或は其の數を減じ今や縣内は治安全く舊に復し、地方住民も其の堵に安んじ得るに至れり。

匪首名 登山

部下數 一〇〇名

裝 備 騎馬、雜銃一〇〇餘丁を携行す

根據地及勢力範圍 安廣縣の匪部及縣南方地區

匪首名 金甲龍

部 數 五〇名

裝 備 騎馬長短銃五〇餘丁を有す

根據地及勢力範圍 安廣、鎮東縣界地方

匪首名 海江

部下數 五〇餘名

裝 備 騎馬、雜銃五〇餘丁を有す

根據地及勢力範圍 安廣、鎮東西縣を中心とする各地域

匪首名 英字

部下數 三〇餘名

裝 備 騎馬、雜銃二〇餘丁を有す

根據地及勢力範圍 鎮東縣東部一帯

以上の外西成順、長山好、雙榮、中山等の匪賊安廣、鎮東兩縣及吉林省方面を股にかけ出沒せるも目下は殆ど其の影を見ず。

治 安 機 關

一 自 衛 團

- 名 稱 第一區隊
 - 第二區隊
 - 第三區隊
 - 第四區隊
 - 第五區隊
- 第一章 自然及人文

二 警察(城市警備)

名稱

警務局

第一分署

第二分署

第三分署

第四分署

第五分署

三 公安隊(討匪)

名稱

警察隊一騎中隊

以上の如く滿軍を基準とし更に警察機關及各村落の自衛團が之に配せられ治安維持に當り何等の危惧、不安をも感ぜしめず。

洮安縣

従前に洮南を中心とする各縣中最も匪賊の出沒多く、討匪工作の進捗と周圍に於ける情勢の變化に依り、縣内に於ける治安は非常に恢復せられてゐる。

匪首名 五省

部下數 八〇人

裝備 騎馬、長銃八〇餘を携行す

根據地及勢力範圍 根據を七十七道嶺の山地に置き本縣内鎮東西邊を其の勢力範圍とす

匪首名 青山

部下數 不明

裝備 騎馬、銃器多數携行の如し

根據地及其の勢力範圍 洮安線南方地區を根據地として、洮南縣突泉隣接地帯及洮安縣内を其の勢力範圍とす。

雜匪賊

洮安線北方地區 常山好、東來紅、號國、九紅、紅榮、黑河、雙龍

洮安線南方地區 東久紅、劉光、任蔣、天亮

治安機關

一 自衛團

名稱

自衛團第一大隊

自衛團第二大隊

自衛團第三大隊

自衛團第四大隊

二 警察(城市警備)

名稱

警察第一署

三 公安隊(討匪)

名稱

警察大隊

洮南縣

治安工作其の當を得たる結果、匪賊の行動次第に癡漫と成り、時に突泉縣下より双江匪の當縣の北境に襲來せる事有り、且同

方面の山地には尙少數の匪團ありて警戒を要すと謂ふも、現在の如く充實したる日滿軍隊並各治安機關の活動は次第に彼等の行動範圍を狭め遂に分裂離散其の匪團としての體形を失ふに至りたり。

匪首名 托天、天樂

部下數 一〇〇余名

裝備 騎馬、雜銃一〇〇余

根據地及勢力範圍 縣内一圓

匪首名 天下紅、占紅好

部下數 一〇〇余名

裝備 騎馬、雜銃一〇〇余

根據地及勢力範圍 縣内殊に鐵道西側地區

以上の外鐵道東側地區には混天好、八方好、打方好、天順等あるも其の行動殆ど表面化し居らず。

治安機關

一 自衛團

名稱

第三團

第四團

第五團

第六團

第七團

二 警察(城市警備)

名稱

第一署

第二署

自轉車隊

差遣隊

三 公安隊(討匪)

名稱

大隊部

一中隊

二中隊

三中隊

四中隊

砲分隊

開通縣

事變の直後は相當亂れ居りたるも、其の後日滿軍隊の討匪工作順調に進捗し當今にては集團的乃至、政治、思想匪は其の後を斷ち、四散小匪の小掠奪を間々散見する程度なり。

匪首 四海

部下數 一〇〇余名

裝備 騎馬雜銃一〇〇餘丁を有す

根據地及勢力範圍 開通縣東部及安廣縣にも出沒す

匪首 四海

部下數 一〇〇餘名

裝備 騎馬雜銃六〇餘丁を有す。

根據地及勢力範圍 開通の東部安廣の南部を其の勢力範圍とす。

匪首 双龍

部下數 五〇餘名

裝備 騎馬にて便衣雜銃を携行す

根據地及勢力範圍 開通縣の東部を其の根據地とし洮南縣第三、四區方面に出沒す。

匪首 金龍

部下數 五〇餘名

裝備 騎馬雜銃若干を有す、その他天下响、大平山、西洋、君子人、天合、七省、濱江紅等ありたるも當今其の出沒の事實なし。

治安機關

一 自衛團

名稱

- 第一隊
- 第二隊
- 第三隊
- 第四隊
- 第五隊
- 第六隊

二 警察(城市警備)

名稱

- 警務一分局
- 東門分所
- 西門分所
- 南門分所
- 北門分所
- 什字街分所
- 東大什字街分所
- 市場分所

三 公安隊

名稱

- 警察大隊
- 警察一中隊
- 警察二中隊
- 迫撃砲分隊

遠 源 縣

事變直後は兵匪乃至は政治的色彩濃厚なる匪團横行し、鐵路の破壊行爲或は都市の襲撃等頻々として行はれたるも當今に於て治安は全く舊に復し、一般住民は何等不安を感じざるに至りたり。

匪首 青龍好、青山好

第一章 自然及人文

部下數 七〇餘名

裝 備 騎馬雜銃七〇餘丁を有す

根據地及勢力範圍 梨樹、昌圖、懷德、各縣を股にかけ出沒に居りたり

匪 首 報國

部下數 三〇餘名

裝 備 騎馬、雜銃若干を携行す

根據地及勢力範圍 縣内及梨樹、昌圖、三縣

匪 首 合好

部下數 四〇餘名

裝 備 騎馬、雜銃を携行

根據地及勢力範圍 縣内及梨樹、昌圖

匪 首 黑河

部下數 二〇餘名

裝 備 騎馬、雜銃を携行

根據地及勢力範圍 縣内及梨樹、昌圖

匪 首 紅福

部下數 五〇餘名

裝 備 騎馬雜銃携行

根據地及勢力範圍 梨樹、昌圖及縣内

然して以上の各匪賊の殆ど全部は梨樹縣内に根據を有し、間々本縣に侵入し來るものなるも、其の出沒數極めて少なし。

治安機關

自衛團

名稱

遼源縣自衛團大隊

第二區自衛團大隊

第三區自衛團大隊

第四區自衛團大隊

第五區自衛團大隊

第六區自衛團大隊

第七區自衛團大隊

第八區自衛團大隊

警察署

名稱

第一分局

第二分局

第三分局

第四分局

第五分局

第六分局

第七分局

第八分局

第一章 自然及人文

警察隊

- 名 稱
- 騎兵第一中隊
- 騎兵第二中隊
- 歩兵第一中隊

梨 樹 縣

滿鐵沿線寄り東邊地區は極めて平穩なるも、懷徳及双山兩縣境方面は事變以來匪賊の横行繁く、之が爲め地方農民は常に彼等の掠奪暴行を蒙り居りたるも、其の後各機關の討匪工作は其の効果を擧げ、比較的平穩なるに至りたり。

乍然殘留小匪たる、青山好、合好、洪福、報國等は時として部下を糾合し、各地に出没し、尙續繼的討匪工作を必要とする現況に在り、殊に當今に於ては武器回收に對し一般農民は匪賊に對する唯一の武器を失ふことに依る不安と、職業的匪賊は口の乾上る關係上、前者は治安の不安にて武器の回收は一般良民を利せず、反つて危険の前に丸腰にて突出すと同じ状態となるの不平を洩し不穩傾向あり、又後者は徒黨を組み武力を以て回收に應ぜざる氣運を生じ不安なる空氣を醸成す。

一 保 甲

- 名 稱
- 一區保甲
- 二區保甲
- 三區保甲
- 四區保甲
- 五區保甲
- 六區保甲
- 七區保甲

二 警察(城市警備)

- 名 稱
- 梨 樹 警察署
- 四平街 警察署
- 郭家店 警察署
- 大成店 警察署
- 小成店 警察署
- 檢樹台 警察署
- 孤家店 警察署
- 三江口 警察署
- 麻喇甸 警察署

三 公安隊

- 名 稱
- 警察第一中隊
- 警察第二中隊
- 警察第三中隊
- 警察第四中隊
- 警察第五中隊
- 警察第六中隊
- 警察第七中隊
- 警察第八中隊
- 警察砲中隊

四商團

名 稱
商 團

(四平街附屬地外)

昌 圖 縣

縣内に於ける治安の狀態は平齊沿線は他縣に比し、其の地理的關係より極めて平穩にして、殊に縣東南方滿鐵線寄り地域は事變以來匪賊被害を蒙りたるが如きは皆無にして、單に匪賊と稱するは一、二人の單なる物取強盜の類に止る。乍然遼源、梨樹、康平縣寄りの地方は青龍好、青山好、合好、報國、黑河、紅福等小匪賊の勢力範圍とせられ其の被害を蒙ること稀なりとせず、之等の難小匪賊も次第に其の勢力失墜し遠からず絶滅すると見られて居る。

名 稱

- 警察大隊部
- 歩兵一中隊
- 騎兵一中隊
- 騎兵二中隊
- 騎兵三中隊
- 騎兵四中隊
- 騎兵五中隊
- 騎兵六中隊

警察署

名 稱

- 第一區警察分局
- 第二區警察分局

- 第三區警察分局
- 第四區警察分局
- 第五區警察分局
- 第六區警察分局
- 第七區警察分局
- 第八區警察分局
- 第九區警察分局
- 第十區警察分局

教 育

沿線地方に於ける人口は稀少にして各地に散在する爲め、集團的教育には極めて不便なると、一般人智の發達程度低く向學心に富まざる爲め教育の普及極めて低位に在り。滿洲國に於ては最近は王道主義に則り學校課程は四書孝經を使用し、以て禮教を尊崇従来の三民主義教育を排し王道主義の源泉たる禮教に依らしめ又初等教育に在りては孝悌、敬老、憐貧、中等教育は教勤、教儉、教信、教恕、高等教は智、仁、勇の三者を以て旨とする教育方針に依り教育の普及向學心の養成に全力を挙げつゝあり。

區 別	項 目	學 校 名		學 級 數		學 生 人 數		所 要 經 費	備 考
		等 級	計	男	女	計			
龍 鎮 縣	縣 立	第一初級小學校	二	一	一	一九	四九二・〇〇	大同二年	
"	縣 立	第一初高級小學校	四	四	一	八七	一、八二四・〇〇		
"	"	第二初高級小學校	四	四	一	九五	一、五二二・〇〇		
克 山 縣	縣 立	初級初高級兩級小學校	五	七	二	二〇六	七、〇二四・〇〇		
	附 屬	初級初高級兩級小學校	二	七	〇	六九	二六九		

泰來縣									
私立	私立	私立	私立	私立	私立	私立	私立	私立	私立
俄國小學	朝鮮小學	日本小學	第二女子初高兩級小學校	第一女子初高兩級小學校	第一女子初高兩級小學校	第一女子初高兩級小學校	第一女子初高兩級小學校	第一女子初高兩級小學校	第一女子初高兩級小學校
初	初	初	高初	高初	高初	高初	高初	高初	高初
三三	一六	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四
三三	七	六	六	六	六	六	六	六	六
一八	三	三	四	四	四	四	四	四	四
二八	五	六	六	六	六	六	六	六	六
四	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二〇〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇
二〇〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇

但し毎月以下同じ

齊北平齊治縣									
私立	私立	私立	私立	私立	私立	私立	私立	私立	私立
俄國小學	朝鮮小學	日本小學	第二女子初高兩級小學校	第一女子初高兩級小學校	第一女子初高兩級小學校	第一女子初高兩級小學校	第一女子初高兩級小學校	第一女子初高兩級小學校	第一女子初高兩級小學校
初	初	初	高初	高初	高初	高初	高初	高初	高初
三三	一六	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四
三三	七	六	六	六	六	六	六	六	六
一八	三	三	四	四	四	四	四	四	四
二八	五	六	六	六	六	六	六	六	六
四	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二〇〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇
二〇〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇

縣名	昌圖縣	梨樹縣	遼源縣	開通縣	洮南縣
所屬宗教	紅卍字會	佛回喇主	佛回喇主	佛回喇主	佛回喇主
統系	紅卍字會	佛回喇主	佛回喇主	佛回喇主	佛回喇主
布教名稱					
所布教者名稱及人數					
信者數					
男信者數					
女信者數					
共計					
附屬事業概況					

第一章 自然及人文

六五

二八清眞學校

縣名	龍巖縣	克山縣	訥河縣
所屬宗教	佛	回基天主	回基天主
統系	佛	回基天主	回基天主
布教名稱			
所布教者名稱及人數			
信者數			
男信者數			
女信者數			
共計			
附屬事業概況			

齊北平喇嘛寺事情

六四

男女小學校二處男生徒一〇名女生徒六〇名

3 産業開發

産業開發の爲め滿洲國政府は國道の建設緊急事と、爲し國道局を設け國道の建設に當らしむる事となりたり、因つて將來に於ては近代的道路網が完成せられ國防治安の維持、産業の開發に甚大なる利益を招來するに至るべし。

口 水路

當路沿線附近には左の水路あり。

- 1 嫩江 嫩江縣を経て訥河縣に入つて嫩江と合す。
- 2 老河 興安嶺の東方より源を發し、龍鎮、徳都を經訥て河に於て洮嫩江に合す。
- 3 爾漢爾河 興安嶺東方山地より源を發し北安、齊爺公府、富裕を經て江橋にて龍江にて嫩江に合す。
- 4 烏爾爾河 興安嶺東方省內より出で龍江にて嫩江に合す。
- 5 阿倫河 共に索倫山地より源を發し洮南、洮安を貫流安廣にて嫩江に合す。
- 6 歸流河 農安より遼源、梨樹縣を經て昌圖縣界を南下し營口に出で海口に達す。
- 7 洮兒河 山地を東流通遼を經て遼源にて遼河本流と合す。
- 8 遼河 等の二大河と之が多數の支流とを有するも、只嫩江を除く外は概ね水量乏しく、小舟をさへ通じ得ざるもの多く其の利用價値極めて少なし。
- 9 新西遼河 嫩江は第一第二松花江の上流を爲す大河にして、龍江以北は龍江と其の沿線各地との交通路として重要な役割を演じ、江橋

以東は哈市上流地方の河豆の移出路となり相當多數の河豆を運搬するもの多く拉濱線方面の被害に依る輸送能力の停止の際は、約二千車見當の河豆が同江を利用し江橋に陸揚げせらるゝあり利用價値を十二分に發揮したり。

各縣交通路

龍鎮縣

一、道路

- 北安鎮—克山 八四支里
- 克東 五〇
- 徳都 九〇
- 烏魚鎮 八〇
- 孫家店—龍鎮 一四〇
- 龍鎮—徳都 一一〇
- 烏魚鎮—通北 一八〇
- 大黑河に向ふ小道あり。

二、河川

興安鎮の東分脈より源を發したる訥謨爾河縣の中部を東西に貫流する關係上、夏期の交通杜絶時は本河を使用其の沿岸諸地方と往來する者多く、又同河は東部大青山森林地帯よりの木材を齊々哈爾に搬出する比較的重要なる河川なり。

克山縣

一、道路

- 克山を中心とする道路。
- 克山—克東 六〇支里

主要馬車道路なり。

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

一〇一支里

本縣内各道路は他縣同様に資を投じて開設せられたるものに非ず總て固有の天然道路が幾分加修せられて人馬の往來を爲すに至りたるものなるが、目下交通機關の地方各地間の往來を頻繁ならしむる見地より主要道路の補修改築工事を計畫中なり。

二 河 川

泰安鎮を中心とする道路。

泰安鎮—西成鎮

—依 安

—雙陽鎮

—安 鎮

—齊々哈爾

七〇支里

九四

九〇

四〇

二三三

主要馬車道路なり。

主要馬車道路なり。

縣の東境克東縣と境を接する地域は、烏爾爾河の流あり、又縣北端の一部は訥爾河の流に沿ふ、之等兩河共夏期は小舟の往來山地方よりより流水ありて、河川に乏しき北滿地方としては幾分便利なる地位に在り。

訥 河 縣

一 道 路

一般道路は何等補修工事を爲さざる爲め其の夏期に於ける人馬の往來に支障を來し二、三の道路を除き其の利用不可能と成るもの多し。

龍江省當局に於ては、各縣或は中央との接衝に依り主要道路に補修改築に着手せむと目下計畫中なり。

拉哈を中心とする道路。

拉哈—通南鎮—西成鎮—克山 一九〇支里

拉哈—通南鎮間は主要馬車道路たり。

拉 哈—大古堆 二〇支

主要道路にして良道たり。

拉 哈—訥 河 六〇支

主要道路たり。

拉 哈—齊々哈爾 二五〇支

訥河を中心とする道路。

訥 河—布 西 五〇支

布西との連絡上主要なる道路たり。

訥 河—德 都 (大黑河行道路) 二二五支

第二章 交通運輸及通信

本道路は南は齊々哈爾、北は大黒河に通ずる主要道路の一部分を成し相當重要性を有する道路たり。

訥河—通南鎮(通寬鎮より泰安鎮に通ずる道路)

六〇支里

訥 河—薩哈鎮

四五支

訥 河—熙南鎮—二站—克山

八〇支

二、河 川

諾謨河は徳都より南流し來り訥河を経て大古堆に於て嫩江の本流に合し拉哈の西方を流れ、齊々哈爾方面に出づ、其の間拉哈齊々哈爾間は相當水量多し。

夏期交通の不便なる際水路を通じ徳都、龍鎮、布西、嫩江等の各縣間との交通を爲し得るを以て其の利便尠からず。

龍 江 縣

一、道 路

他の諸地方と同様に夏季は道路悪く人、馬、自動車等の運行至難なるも、冬季地表凍結するに至れば、從前の惡道路は却つて絶好の良路と成り、地方産物或は其の必需諸品の運輸の爲め各交通機關の往來頻繁を極むるに至る。

乍然若し舊來の各道路をも補修工事を爲すに於ては、夏期に於ても幾分利用し得るに至るべく、目下省公署民政廳技術處に於て之が計畫を樹立し、經費の捻出方法にして解決するに於ては直に之が實行に着手せらるゝと謂ふ、今主要道路を示せば、左の如し

齊々哈爾—扶 餘

齊々哈爾より松花江に沿ふて泰康、茂興站を経て扶餘に入り夫れより吉林省域に通ずる道路にして齊々哈爾—扶餘間二〇〇哩、齊々哈爾—吉林省城間四九五哩。

齊々哈爾—黒河

訥河、嫩江、瓊琿を経て黒河に達する道路にして齊々哈爾—黒河間四百〇〇哩。

冬期は乗合自動車に依り兩地間の連絡行はれつゝありたるも、現今鐵道の開設の結果訥河—黒河間の運行のみにて訥河—齊々哈爾間の運行は之を見ざるに至りたり。

齊々哈爾—泰 來

齊々哈爾より昂々溪を経て洮昂線に沿ひ泰來に通ずる道路にて全長一〇五哩。

齊々哈爾—甘 南

齊々哈爾より郝家店を経て甘南に至る六一〇哩。

齊々哈爾—札蘭屯

齊々哈爾より回子房—碾子山に至る主要馬車道路。

齊々哈爾—林 甸

齊々哈爾—林甸全長七三哩。

齊々哈爾—拜 泉

齊々哈爾より依安を経て拜泉に至り更に海倫に通ずる道路。

二、河 川

本縣は興安嶺山脈中より源を發せる嫩江ありて夏期は舟船の便殊の外頻繁なり。

本江は主として上流地方より産出の特産物或は木材の夏期に於ける唯一の輸送経路にして、相當重要な役割を演ずるものなり。

又一方夏期に於ては齊々哈爾—富拉爾基間に發動汽船の運航を見る。

泰來縣

一、道路

泰來—康 八〇支里

本道は主要馬車道にして多特賽を經、北鐵喇嘛甸子に及ぶ二三五支里の一部を成す。

泰來—塔子城—武興設治局(索倫行)一二〇支里

泰來、塔子城間は良道にして其の利用價值大なり。

泰來—杭 鼎—鎮 東 一七〇支里

五廟子 七〇

溫特河 一二〇

二、河川

嫩江は縣の北邊より東南に、洮兒河は縣の南部を東西に流る。前者の其の水深と河幅廣き關係上、其の利用價值絶大にして夏期は舟船に依り、冬期は水上を利用し、奥地地方との往來を爲し得る。

鎮東縣

一、道路

鎮東—洮安 七〇支里

杭 鼎—七克圖—泰來 一七〇

安 廣 一三〇

葛根廟—王爺廟 一七五

蘇鄂公府

二二〇

以上の諸道路中洮安、安廣、泰來方面に通ずる各道路は、土質と地形の關係上相當惡道路にして、馬車の運行困難なる處尠からず。

尙この區間は冬期のみ了幾分利用價值を發揮すと稱して過言ならざる程度なり。

興安省葛根廟、王爺廟或は蘇鄂公府方面に通ずる道路は地盤の關係上夏期出水の時以外は其の利用效果相當あり。

二、河川

縣の南邊は洮兒河東西に流れ嫩江に合し居る爲め、本流を利用し泰來方面との交通も可能にて、其の交通圈内の住民は本河を利用し地方相互間の往來をなしつつあり。

洮安縣

一、道路

白城子—安 廣 六〇哩

王爺廟 五〇

洮南 二五

鎮東 二五

當地方は洮兒河及歸流河流れ、一般に低地なる關係、上夏期の降雨期に際しては出水の非常なる被害を蒙り、往來の如きは相當期間全々杜絶するを常とす。

因つて道路は他縣に比し極めて其の素質惡し。

二、河川

洮兒河歸流河、の二小河あるも、之を利用して旅客並に貨物輸送を爲し得るものに非ざれば其の利用價值皆無にして、却つ

て夏期の降雨氾濫を見る事多き關係上、交通上より見る時は何等存在の意義を有せず。

洮南縣

一、道路

洮南—贍榆 一七〇支里

洮南—安廣 一七〇支里

比較的人馬の往來多き道路にして、贍榆より分岐して一方は達爾罕王府、他方は太平川を經由して鄭家屯に入る。比較的良好にて安廣經由大賚に至る。

洮南—葛根廟 一二五支里

本道路は河川に沿ふて葛根に出づる爲め夏期に於ては交通全く杜絶す。

葛根廟寄りの地域は地盤固き爲往來比較的容易なり。

洮南—瓦房 一二〇支里

自動車の往來を見ることあるも良道とは稱し難し。

洮南—突泉 二〇〇支里

突泉寄りの方面は山地にして坂路を有するも、洮南縣方面は濕地多く交通容易なりとは稱し難し。

洮南—鎮東 五八〇支里

洮南—開通 五八〇支里

等の諸道路あり。

地勢一般に低く濕地に富む關係上冬期を除き其の往來極めて不便なり。

二、河川

開通縣

一、道路

開通—贍榆 一〇〇支里

開通—乾安 一二五支里

開通—邊昭 六〇支里

開通—洮南 一六五支里

開通—八面山昭—(安廣) 七五支里

開通—昭—正北鎮—長嶺 一七〇支里

開通—興—乾安 一二五支里

以上を以て主要なる道路とす。

當地方に於ける道路は、主として砂地或は濕地地帯にして、夏季降雨期に際しては相當惡道路と化し人、馬、車の往來困難と成る處尠からず。

二、河川

無し。

達源縣

一、道路

一般に惡く普通道路の如く「パラス」敷に依る如き様式のもの皆無にて、單に人、馬、車が多く通り、慣らされ來りし箇所

が年月の経過と共に一種の道路の如き外觀を呈するに至りし迄のものにて、従つて結氷期たる冬期を除き他の三期間は其の利用價值少く殊に夏季降雨期には人、馬、車の往來殆ど不可能に陥る事稀ならず。

鄭家屯—双山—懷德

三八六支里

本道路中鄭家屯—双山の區間は冬期乗合自動車の運行あり。

鄭家屯—長嶺

二六〇支里

—開通(洮南に至る)

三九〇支

—三江口—四平街

一九〇支

—康平—法庫門(奉天營口)

八三〇支

內康平間四三〇支里間は冬期乗合自動車の運行あるも土地柄匪賊に依る被害多き爲め乗客人員多からず。

鄭家屯—小庫倫

六五〇支里

—達爾罕王府—開魯

四三〇支

—魯北

五三〇支

二、河川

縣内に遼河の東流及西流せるものありて新河と三江口に合し南流し營口に至る爲め古來營口との間に舟船に依る連絡あり、其の結果として鄭家屯は縣内唯一否當地方一帯に於ける無二の都市としての今日を築き上げたものなるが、其の後遼河は年々河砂に依り水深淺くなり舟船の便に依る營口方面との連絡は殆ど不可能となりたる結果、本縣内に於ける河川の利用は全然望まれざるに至れり。

梨樹縣

一、道路

梨樹—郭家店

四〇支里

最近道路の補修工事を爲したる爲め馬車の往來非常に便利と成りたり。

梨樹—八面城

五〇支里

縣内第一區五里堡にて分れ一方喇嘛甸鎮を経て八面城に至るものと、他方直接八面城に入るものとの二路あり。

梨樹—新京

七五支里(縣内里數)

—梨樹台鎮—孤家子

九五支()

梨樹台鎮—懷德

八五支()

—双山

六五()

以上の如き諸道路を有するも之等は總て島の中に土盛し其處に人、馬車の往來せる程度のものにて「バラス」を詰め「ローラー」等にて地均しを爲せるものに非ざれば、冬期凍結期間中は格別、夏季に至れば殆ど人、馬、車の往來困難となり、所に依りては往來不可能に陥るもの尠からず。

二、河川

縣の西北より東北に亘り遼河の流れあるも水淺く舟運の便無し。

昌圖縣

一、道路

昌圖—金家屯

七五支里

—三道口

七五

昌圖 一 亮中橋

四五支里

一八面城

一四平街

二河川

等の諸道路あるも、其の土質と補修工事のなき爲め降雨期に於ける往來極めて困難なり。
康平、法庫、遼源界は遼河南北に流れ居り、夏期は舟船に依り、冬期は氷上輸送を爲し居る爲め幾分恵まれたる地位にあるも、遼河は近來非常に淺くなり従前の如く地方交通路として價值薄らぎたる結果、地方住民としても大なる利益を受けざるに至れり。

第二節 交通機關

各縣荷馬車

龍鏡縣

本縣内の如く交通不便なる地方に於ては人民の往來、貨物の運搬に就ては相當重要な役割を演ずる交通用具たり。
鐵道工事繁忙を告げたる當時に於ては邦人の荷馬車仲介業者在りて、滿人所有者より荷馬車を集め、必要工事關係者に供給を爲したるが如きも目下は何等斯かる機關の存在を見ず。

一、車數 二二〇
大車 一〇一六
花殼車 一四

轎車 一

木頭車 一〇〇

荷車

- 1 地方特産物の搬出。
- 2 需要雜貨の搬入。
- 3 旅客の輸送。

此の原始的運輸機關は交通不便なる文化の中心より遠隔の地點に於て實に重要な存在なり。
鐵道網の完成に伴ひ遠距離輸送は次第に鐵道に奪ひ去られ、短距離轉送に就ては斷然鐵道より優勢を示すも、鐵道と競争を意識的になす者なく殆ど大部分は鐵道の培養的用務を果し居り何等の威脅とならず。

二、運賃

種々なる關係に因り其の運賃を異とすと雖も大體次の如く見て大差無し。

日本軍隊 三圓 (金) (一日一車に付き)

普通 三元五角乃至四元 ()

其他

- 1 牽引馬數を増加したる場合。
 - 2 夏期車馬の往來困難なる時。
 - 3 治安の不安なる地方への貨物の運搬。
 - 4 春、夏、秋の農繁忙期。
- 等の場合は料金高く。

1 貨物搬出の歸途。

2 大集團的運搬にて通行不安無き時。

右の場合等は其の料金低し。

克山縣

本縣に於ける荷馬車は、殆ど農家の自用車にして其の收穫特産物の運搬に使用するを普通とす。

乍然其の他にも驛よりの貨物の運搬或は各城鎮間の旅客、小荷物の轉送に當るものもあるも其の數多からず。

荷馬車業者

縣内四七戸、主として驛よりの貨物輸送に常用せられ居るものにして、多數の馬車を有して貨物輸送の一手引受を爲すか如

きもの無し。

但尙車店なる車馬泊ありて、此處には各地より集り來れる馬車が宿泊乃至は連絡し居るを以て之を利用すれば馬車の雇入に

は何等の困難を感じず。

一、車數 二、六二九

大車 一、一八四

花穀車 一、〇五六

木頭車 三八七

二、運賃

克山、泰安鎮等城内の貨物運搬は驛—配達先 一往復 六角 (一車)

普通賃率 三元五角 (一日一車に付き)

最高 四元五角 ()

最低

三元 ()

此の外に拜泉、德都其の他城鎮一往復若干との運賃取極めて依る方法もあり。尙車店は馬車を雇入るに當り、尙車店に於ては、馬車雇入の請負を爲すものあり。尙車店は馬車を雇入るに當り、尙車店に於ては、馬車雇入の請負を爲すものあり。

訥河縣

荷馬車業とする者無し。

尙車店の如き馬泊に於ては、馬車雇入、貨物運送の仲介、仲立を爲すを常態とす。

通行可能地域

拉 哈—通南鎮

訥 河—拉 哈

布 西

拉 哈—大古堆

訥 河—薩 哈鎮

右は主要馬車道路にて其の他克山、齊々哈爾、德都方面行道路は馬車の運行可能なり。

一、車數 五、三一六

大車 二、三九八

花穀車 二二

木頭車 二、八九七

二、運賃

第二章 交通運輸及通信

1 往復別 (片道)		混保大豆 一袋	國幣	三分
		其他穀物		三一五分
		雜貨 每百公斤		六分
		國際公司	每車	二毛
2 一日貸切		運費の取定めなし、		
3 農閑期 (片道)		混保大豆 一袋	國幣	三分
		其他穀物		三一五分
		雜貨 每百公斤		六分
		國際公司	每車	二毛
4 農繁期 (片道)		混保大豆 一袋	國幣	四分
		其他穀物		四一五分
		雜貨 每百公斤		六分
		國際公司	每車	三毛

(訥河城内より車站まで約三杆)

龍江縣

齊々哈爾

市馬車を多数有す但し貨物輸送引受を專業とする者無く、馬車は主として農家の有するものを冬期閑散期に副業的に他人の貨物輸送を引受くるか、或は自身の貨物を市場に賣放つ爲め輸送の衝に當り歸路他人の商品を運搬歸郷する等の形式を取るを常態とす。

一、車 數	四二三
大 車	一六六
花 穀 車	三九
木 頭 車	二一八

二、運賃 (一日一車に付き)

運賃は次の如き種々なる場合に依り其の率を異にす。

- 1 軍隊の日雇の場合 國幣三圓見當 (日本軍隊は日雇の場合は金三圓を支拂ふ)。
 - 2 市場より歸郷の空車を利用する場合 國幣三圓五十錢、
 - 3 夏期農繁忙期に於ける場合 國幣四圓乃至四圓五十錢、
 - 4 牽引馬數の多少に依る場合。
普通二頭乃至三頭に依るも之を超過し多數にて牽引するときは二頭毎位に一割見當の割増を要す。
 - 5 道路悪き場合。
 - 6 匪賊の横行激しき場合。
最高率にて之が引受を爲す者極めて尠し從て賃率に非常な開を示す。
- 而して各種の場合を綜合するに普通賃率は四圓見當と見て大差無し。

泰來縣

馬車宿泊を目的とする車店は其の數三二を數ふるも、之等は總て冬期農民が特産物の賣放の爲め市場に集りたる場合に宿泊箇所を提供する程度のものにて、自身多數の馬車を有して貨物の引受を爲すが如きこと無し。

一、車 數 一、六二八

一、大車 一八〇一
 木頭車 四九七
 牛車 三三〇

二、運賃

泰來—塔子城間

1 夏秋期 一〇〇斤に付 一元五角—二元程度

本季節は道路悪しく且農繁期なる爲め運賃高價なり。

2 冬期 一〇〇斤に付 三角—六角

本季節は農家の閑散期なると、貨物の賣放ちの爲市場に出づる馬車多く從て其の運賃極めて低廉なり。

3 城内運搬の場合。

縣城内に於ては(驛も含む)

麻袋一袋に付 五分—一角程度なるを普通とす。

尙此の外縣城内には乗合馬車五三台ありて其の料金は、

驛—縣城間 二角

城内各街間 一角—三角

鎮東縣

車馬專業の車店を有せず、總て農家所有の荷馬車を利用し地方相互間の往來、或は自己所有產物の搬出、必需商品の各村鎮への仕入運搬を爲すに使用しつゝあり。

一、車數 三、〇一三

乗合馬車 一三

荷馬車 三、〇〇〇

二、運賃

一日雇入(一車に付き)

普通 三元程度
 最高 四・五〇元

城内の雜穀類の運搬一麻袋

普通 五分程度
 最高 一角

運賃は種々なる條件と事情とに依り其の金額を異にするも大體以上の如きものと見て大差無し。

一般馬車は城内に於て小口の運搬を引受くることあるも、遠距離の場合は殆ど一往復或は一日一車に付き幾何と謂ふ取極を爲すを普通とす。

洮安縣

洮索線敷設の關係より其の利用次第に増加するに至りたる爲め地元荷馬車の外相當各隣接縣よりの移動し來りたるもの多し。

一、車數 一、六五六

乗合馬車 一三九

荷馬車 一、六一七

二、運賃 (一日一車に付き・四元)

普通 三・五〇元

最高 四・五〇元

第二 交通運輸及通信

最低 三・〇〇元

洮南縣

軍隊の駐屯と治安の恢復に依る洮南の異常なる發展につれて、縣城に於ける使用數激増せる爲め各村落の縣城への進出次第に増加するに至りたり。

一、車數 二、一七五

大車 一、〇二八

大頭車 一、一四七

二、賃銀及運行地點

瓦房—洮南 (區間一台の運賃) 一〇元

(正脚と稱す)

洮南—瓦房 () 六元

(回頭と俗稱す)

突泉—洮南城 () 一九元

(正脚)

洮南—突泉 () 一四元

(回頭脚)

六戸 (突泉縣)—洮南城 () 二二元

(正脚)

洮南—六戸 () 一七元

(回頭脚)

回頭脚は歸車にして正脚に比し低廉なり。馬車賃の騰落比較的激しく一定せず。特産物價格の高低、車の多寡及季節等に依り常に上下するを普通とす。

開通縣

一、車數 九七六

大車 六九七

牛車 二〇〇

轎車 二

木頭車 七七

二、運賃

イ 開通縣城—開通驛

雜貨 一箇に付 一角

穀物 一麻袋に付 三分

ロ 縣外

1 乾安又は安廣—開通

冬、春期 雜貨 百斤に付 (正脚) (四角) (回頭) 五角

穀物 一石に付 二元

夏、秋期 雜貨 百斤に付 (正脚) (六角) (回頭) (五角)

第二章 交通運輸及通信

2. 大賚—開通間

冬、春期	雜貨	百斤に付	一元八角	(正脚)
	穀物	一石に付	四角	(回脚)

夏、秋期	雜貨	百斤に付	一元二角	(正脚)
			一元	(回脚)

3. 瞻榆—開通間

冬、春期	雜貨	百斤に付	三角五分	(正脚)
			一角	(回脚)

夏、秋期	雜貨	百斤に付	一元五角	(正脚)
			五角	(回脚)

遼源縣

荷馬車の營業を專業とするものなり大口に馬車を必要とするときは車店即ち馬泊或は運送店糧棧等の自家用馬車に依らざるべからざるも其の數多からず。

他は殆ど全部農民所有の馬車のみにて冬期農閑期其の副業的に貨物の運搬に従事すること常態とす。

一、車數

- 一頭馬車 一二
- 二、 一六八
- 三、四頭馬車 二、一六五

五、

九九

二運賃

運賃は季節、運送地點、曳馬の多寡、正脚或は回脚等に依り夫々其貨率を異にすと雖大體次の如し。

- 1 鄭家屯—双山 雜貨百斤に付 一元二角見當
糧穀一斗に付 一角五分
- 2 一日雇 三—四頭引馬車 三元—四元五角
- 3 鄭家屯—驛運賃
糧穀 一麻袋に付 三分五厘—四分五厘迄
雜貨 百斤に付 六分

梨樹縣

荷馬車の營業を專業とするものなし、大口に馬車を必要とするときは車店即ち馬泊或は運送店、糧棧等の自家用乃至特殊紹介に依り必要車輛の調達を爲しつゝあり。

一、車數

- 大車 二、七七一
- 花穀車 二、三五八
- 木頭車 三二
- 轎車 二一五
- 昌圖縣 一六六

本縣に於ては東南に滿鐵線西北に平齊線あるを以て其の輸送も主として短距離輸送にして長距離に亘るもの殆どなし。

第二章 交通運輸及通信

一、車數	七、〇〇一
大車	五、二六〇
花殼車	七五六
轎車	一四〇
木頭車	八四五
二、運費	
馬車縣城—馬仲河井往復	一元二角 (一車に付き)
—二道溝	一元八角 ()
—通江口	三元四角 ()
—實力鎮	三元 ()
—金家屯	三元 ()

各縣自動車

歐洲戰後より自動車は漸次其の數を増し、各主要都市に於ける交通機關としてのみ利用せられたるが後次第に利用範圍を擴大し奥地主要都市或は奥地相互間の連絡運輸機關として重要な役割を演ずるに至り、其の後滿洲事變の勃發及兵匪の横行に依る地方治安の不安定は、一時之等の運行を殆ど停止したるも、日滿軍隊及其他各治安機關の犠牲的なる討匪工作の結果、治安は舊に復し自動車の運行威脅を受けざるに至りたる爲め、大同二年未より休止自動車營業は次第に各地に興るに至る。

滿洲國交通部は交通機關としての自動車を重視し、先づ自動車網の計畫を樹て、専用道路の敷設と既設道路三萬杆の改修、補修工事を敢行するに決し、自動車營業の助長を積極的を開始せるに至りたるを以て、其の完成の曉に於ては軍事並地方治安維持産業開發に裨益する處甚大なるべしと期待さる。

一方滿洲國の主旨を帶し鐵路總局に於ても國線の培養的乃至は其の他の使命を果たさしめる爲め、當路管内に次の如き二自動車線を開設する事となりたり。

- 一 訥 河—大黑河
- 二 王爺廟—索 倫

滿洲に於ける現状を以てすれば、夏期一度雨期に際會するに於ては河川氾濫道路泥濘と化し、全く人馬の往來も困難となるを以て自動車の運行の如きは全々望まれず、故に夏期は各自動車業は休業を餘儀なくざるを常態とす。然るに冬期に至り地殼凍結するに於ては一面の廣野は自然の良路となり、其の運行極めて容易なり。尙輸送對像に就て見るに、旅客を主とし貨物の専門的運送を爲すもの皆無にて、單に旅客携行手荷物の運搬を引受けるのみなり。

龍 鎮 縣 乘合自動車其の他の類似交通機關の運行するものなし。

克 山 縣

交通機關

自動車

本縣には長途自動車の經營を專業とするもの無く、僅かに二軒の代理店ありて旅客の利便を計り居る程度に過ぎず。

商號	國籍	設立時	代表者	資本		車數	積載重	乘客數	通過區域
				資本金	出資方法				
新大汽車店	滿	大同二年一月一日	李秀峰	五〇〇元	株式	四輛	一噸	二〇人	北泉興縣鎮
榮北汽車店	滿	大同二年十月二〇日	李榮三	一,〇〇〇元	"	三輛	"	"	德都縣

通過地域及運賃

克山—拜泉 國幣 二元

此の地方旅客は比較的多し。

克山—德都 國幣 三元

此の地方行旅客數多からず。

克山—北興鎮 國幣 三元

旅客多からず。

訥河縣

嘗ては齊々哈爾—拉哈—訥河—大黑河方面行自動車の運行を見たるも、新線の敷設を見るに至りたる今日に於ては訥河以南の區間は其の運行を中止し専ら大黑河方面との連絡に當りつゝあり。

然して従前本區間中は訥河、拉哈方面に於ける滿洲國側群小汽車公司を國際の手にて合同せる國際汽車部ありて、乗合自動車運行を爲し、奥地相互間の旅客並に手荷物の運搬を爲し來りたるが、現在これらを解體せしめ鐵路總局に於て之が營業を引續ぎ運行を開始するに至りたり。總局自動車運賃左の如し。

一、營業軒數

訥河—嫩江 九一軒
嫩江—四站 八六軒
四站—璦琿 一一〇軒
璦琿—黑河 三三軒

訥黑線自動車運算表

(1) 旅客運賃

訥河	嫩江	四站	璦琿	黑河
5.50	5.20	7.20	12.40	14.35
16.65	17.85	19.80		
			2.00	

備考
(一) 一級品
(二) 二級品
100 圓當り

(2) 貨物運賃

訥河	嫩江	四站	璦琿	黑河
(一) 5.00 (二) 4.09	(一) 4.73 (二) 3.87	(一) 6.60 (二) 5.40	(一) 11.33 (二) 9.27	(一) 13.14 (二) 10.75
9.73	16.33	18.15		
			1.81	1.48

(3) 自動車貸切料金表

車輛種別		日滿軍隊及官憲への時		其ノ他ノトキ	
バス	大型	1時間=付	6.00	1時間=付	6.50
	20人乗	1日	55.00	1日	60.00
トラック	小型	1時間	5.00	1時間	5.50
	12人乗	1日	45.00	1日	50.00
トラック	大型	1時間	5.00	1時間	5.50
	2噸積	1日	45.00	1日	50.00
	小型	1時間	4.00	1時間	4.50
	1噸半積	1日	35.00	1日	40.00

貸切條件

- 1 一時間又ハ一日トアルハ一時間、一日未滿
- 2 貸切車ノ運轉手消耗品ハ總局負擔トス
- 3 貸切車ハ一日拾時間ヲ超エザルコト(軍隊官憲ヲ除ク)
- 4 運轉手ノ食事及宿泊ハ相當便宜ヲ供與セシムルコト
- 5 貸切車ハ警備員ヲ附セズ(當方必要ト認ムル以外)
- 6 警備費ハ一日國幣三圓(一時間=三十錢ノ割)

龍江縣 齊々哈爾市

從前に在りては齊々哈爾を中心として富裕、訥河其他の地方に往來する乗合自動車有し居たるが、事變後治安の維持困難にして、匪賊の横行より來る被害を蒙る事皆無ならざりし爲め、運行を中止或は事業を解散するもの多く、現狀に於ては齊

々哈爾を中心として與地各都市との自動車に依る往來は全然見るを得ざるに至りたり。現在運行を見つゝあるは、昂々溪より富拉爾基に向ふ一線有るのみなり。乍然滿洲國の治安其の他の關係上鐵道圏外に位置する各地方都市間の自動車路完成に向つて努力を爲しつゝあるを以て、近き將來に於ては之等各自動車網の完成は鐵道の培養的な業務並交通不便なる各地方民に對し一大福音を齎すべき情勢の下に在り。

泰來縣

商號	國籍	設立時	代表者	資本金	出資方法	車數	積載重	乘客數	通過地域
大同汽車公司	日	昭和七年六月二十日	山本クニ	六千五百圓		一〇台			
吉野某	日	昭和八年十月十日	吉野益登	一萬二千圓					
丸共自動車公司	日	昭和八年十二月二十日	坂宮盛男	八千圓					
昂々溪汽車公司	日	昭和八年十二月二日	南吳星	四千圓					
永興汽車公司	日		周貴臣	江洋一萬六千元					
協茂汽車行	日		顧德山	江洋八千元					

一、營業期間

冬期四ヶ月間

春夏秋の三季は道路悪しく往來困難なる爲め營業を停止す。

第二章 交通運輸及通信

二、料 金 (泰東—塔子城)

片 道 四元

貨物の運搬は之を爲其單に少量の手小荷物の取扱を爲すに止まる。

鎮 東 縣

乗合自働車の運行なし。

洮 安 縣

乗合自働車の運行を行はず。

洮 南 縣

商 號	國 籍	設 立 時	代 表 者	資 本	出 資 方 法	車 數	積 載 重	乘 客 數
利民汽車公司	滿	民國一七年八月	陳子民	三〇、〇〇〇元	合資	一〇		

一、通過地點

洮南—突泉—六戸—學田

—安廣—大賚

—瓦房

二、運 賃 (自洮南)

突 泉 五元

六 戸 五元

學 田 五元五角

安 廣 六元

大 賚 一元

瓦 房 二元五角

定期運行を爲さず。

開 通 縣

日人經營に係る永田自働車公司ありて地方相互間の旅客輸送に當りつゝあり。

商 號	國 籍	設 立 時	代 表 者	資 本	出 資 方 法	車 數	積 載 重
永田汽車公司	日	康德元年四月	岡村青市	一〇、〇〇〇圓	單獨出資	二	

一、通過地點

開通—四海窩棚

—大麻蘇

其の他

二、運 賃 (自開通)

四海窩棚 二元

大麻蘇 二元五角

遠 源 縣

汽車公司ありて鄭家屯を中心として各鄰縣との旅客の運搬を爲し居るも道路の運行に適せざると、治安に幾分の危険ある爲め其の營業成績芳しからず。

商號	國籍	設立時	代表者	資本	本出資方法	車數	積載重	乘客數
興北汽車公司	滿	大同二年十二月六日	張益臣	一八,〇〇〇元	合資	四		一六人

一、通過地點

鄭家屯—雙山

—康平

—法庫

—新民

二、運賃 (自鄭家屯)

雙山 二元

遼源窩堡 三元

康平 四元

法庫 六元

新民 一〇元

定期運轉は双山間のみにて其の他は不定期運轉なり。

昌圖縣

商號	國籍	設立時	代表者	資本	本出資方法	車數	積載重	乘客數
日滿合辦有限公司	合辦	康德元年三月	近藤長茂	五〇,〇〇〇圓	日滿合辦	トトラック 乘合三		

一、通過地點

昌圖縣—縣城—亮中橋—金家屯

二、運賃

亮中橋迄 五角

金家屯 一元

本公司は將來縣内各主要村落及開原、四平街、鐵嶺等其の運行を延長す可く計畫中なり。

梨樹縣

商號	國籍	設立時	代表者	資本	本出資方法	車數	積載重	乘客數
四檢汽車公司	滿		呂惠卿	一一,〇〇〇元	合資	六		一四人

一、通過地點

四平街—梨樹

梨樹—榆樹台鎮

二、運賃 (自四平街)

梨樹 大人 一元

小人 五角

梨樹—榆樹台鎮間は不定期運轉。

航空路

當路管内に於ける航空路の中心地は齊々哈爾にして同地には滿洲國航空會社齊々哈爾管區事務所あり。

- 一 大黑河線
 - 二 滿洲里線
 - 三 哈市、新京經由日本連絡線
- の南滿航空中繼地として航空輸送の重要地點を爲す。

A 航空路

- 1 齊々哈爾—北安鎮—大黑河
- 2 / —哈市—新京—奉天—大連
- 3 / —海拉爾—滿洲里

の間に定期空輪を行ひつゝあり。

B 使用機

- 3 M (二人乗)
- 1 M (六人乗)

C 航空日

- 大黑河行 毎週 月 曜日 一往復 (北安經由)
- 滿洲里行 / 水、金 / 二往復 (海拉爾經由)
- 新京、奉天、大連行 / 水、金 / 二往復

新京行 (止)

月、水、金 / 三往復

D 所要時間

- 1 齊々哈爾—大黑河 三時間半
- 2 / —北安鎮 二時間
- 3 / —海拉爾 三時間
- 4 / —滿洲里 四時間半
- 5 / —新京 四時間五〇分
- 6 / —大連 七時間二〇分

E 料 金

- 滿洲里—海拉爾 二四圓
- 海拉爾—齊々哈爾 五六圓
- 齊々哈爾—哈市 二八圓
- 新 京 五六圓
- 大黑河 五八圓 (軍用)
- 北安鎮 二一圓 (/)
- 大 連 九五圓

手荷物是一名一五斤迄は無料、夫れを超過する場合は特定料金を徴す、尙軍用線は軍部の座席に餘裕ありたる場合に限り一般取扱を爲す。

第三節 通信

郵政

滿洲に於ける通信業務は其の歴史古きに不拘、文化並其の經濟的發達低位に在り、加之爲政者は之が發達改良に對し何等の努力も拂はざりし關係上、今日に至る迄不備不完全を極めたるを以て、滿洲國は大同元年七月二十五日之を實力接收するや銳意内部的諸制度と其の事務系統の改革に没頭する一方、電信電話事業に對しては治安の維持、産業の開發文化の向上、經濟の發展に資せん爲め日滿合辦に依る電信電話會社を設立し、大同二年三月より之に特權を與へ事業の完備と其の普及發達を計らしむに至りたり。

其の結果として現在に於ては各地との通信容易になり且つ日文、歐文の使用又隨意になりたる爲め其の利便は事變前の其れに比し隔世の感を抱かしむるに至りたり。

乍然郵政に就ては日滿小爲替協定の成立等のことありて民衆の受くる利益甚大となりたり。

(△アリ)

各郵政局

縣名	所在地	國內爲替取扱度類	國際爲替取扱局	小包取扱局
龍山縣	北安鎮		△△	△
訥安縣	訥安鎮		△	△
齊齊哈爾市	齊齊哈爾市		△△△	△

縣名	所在地	國內爲替取扱度類	國際爲替取扱局	小包取扱局
龍山縣	北安鎮		△	△△
訥安縣	訥安鎮		△	△△
齊齊哈爾市	齊齊哈爾市		△	△△

爲替料金

滿日通常爲替料金

幣別	送	備	考
五圓		一角五分	
一〇圓		二角五分	
二〇圓		三角五分	
三〇圓		四角五分	
四〇圓		五角五分	
五〇圓		六角五分	
六〇圓		七角五分	
九〇圓		九角五分	

一二〇圓	一五〇圓	一八〇圓	二一〇圓	二四〇圓	二七〇圓	三〇〇圓	三三〇圓	三六〇圓	四〇〇圓
四角五分	五角五分	六角	六角五分	七角	七角五分	八角	八角五分	九角	九角
四〇〇圓(國幣)ヲ超過スル金額ニ對シテハ四〇圓(國幣)又ハ其ノ端數毎ニ五分ヲ加減ス									

滿日及國內小爲替料金

一圓	五圓	一〇圓	一五圓	一〇圓
(國幣)				
三	五	七	一	一
分	分	分	角	角

郵便料金

普通郵便	滿洲局管內各局間	日本	蒙古、新彊	香港、澳門
書狀	書狀	書狀	書狀	書狀
一分	一分	三分	三分	三分
一分	三分	三分	九分	四分
六分	六分	六分	六分	四分

航空郵便	國內	朝鮮	日本
書狀	書狀	書狀	書狀
一角五分	一角五分	一角二分	一角二分
七角	一角二分	一角二分	三角五分
			一角八分

日滿小包料金

(單位圓)

重量	甲類	乙類	丙類	日本、關東州、朝鮮
一公斤以內	二〇〇	四〇〇	六〇〇	四五
一	三〇	六〇	九〇	六〇
二	四〇	八〇	一二〇	九〇
三	五〇	一〇〇	一五〇	九〇
四	六〇	一四〇	一八〇	一二〇
五	七〇	一六〇	二一〇	一二〇
六	八〇	一八〇	二四〇	一五〇
七	九〇	二〇〇	二七〇	一五〇
八	一〇〇	二二〇	三〇〇	一八〇
九	一一〇	二四〇	三三〇	一八〇
一〇	一二〇	二六〇	三六〇	一八〇
一一	一三〇	二八〇	三九〇	一八〇
一二	一四〇	三〇〇	四二〇	一八〇
一三	一五〇	三二〇	四五〇	一八〇
一四	一六〇	三四〇	四八〇	一八〇

齊北平齊沿線經濟事情

本、電報の正寫料 和文二十語毎に五分
 歐文二十五語毎に一角
 へ、市内電報の料金左の如し。

官報及私報 一語に付和文國幣三分
 歐文漢文、四分

市内電報とは同一市町村内に發着する電報を云ふ。
 卜、當路沿線に於ける電々會社の本年度新規事業。

1、康德元年度新設局

八面城 二月十一日
 王爺廟 十二月十六日

2、同 新增設電信回線

四平街洮南 一番線 五月二十一日
 二番線
 奉天齊々哈爾濱 八月六日
 四平街齊々哈爾濱 十六日
 海倫北安鎮線
 齊々哈爾北安鎮一番線
 二番線
 洮南齊々哈爾一番線
 二番線

三、康德元年度新增設市外電話回線

四平街、洮南電話線 三月一日
 四平街、遼源電話二番線
 遼源、洮南電話二番線
 洮南、泰來電話線 五月二十六日
 泰來、齊々哈爾濱
 洮南、齊々哈爾濱電話二番線
 通化、克山電話線
 克山、泰安鎮電話線
 泰安鎮、齊々哈爾濱電話二番線
 哈爾濱、

電話

通話料金

(康德元年現在)

所在地	電話局名稱	電話加入者數
齊哈爾濱	社會電話局	二二七
洮南	地方電話局	一三三
白城子	社會電話局	一
白城子	地方電話局	一
鎮東	社會電話局	一
鎮東	地方電話局	一
泰來	社會電話局	一
泰來	份股電話局	一
克山	社會電話局	一
克山	地方電話局	一
鎮安泰	社會電話局	一
鎮安泰	地方電話局	一
訥河	社會電話局	一
訥河	地方電話局	一
街基	社會電話局	一
東屏	社會電話局	一
哈拉	社會電話局	一
開通	社會電話局	一
開通	地方電話局	一
昌圖	地方電話局	一
昌圖	地方電話局	一
八面城	地方電話局	一
遼源	社會電話局	一
梨樹	地方電話局	一

龍江縣	訥河縣	齊齊哈爾	海盛	三泰	源豐	順和	鴻興	義信	天德	益發	會記	德祥	萃豐	國際	豐盛	仁昌	榮增	中央	益發	瑞慶	萃豐	麗生	益發	國際	義和	豐盛
昂溪	拉哈	齊齊哈爾	魏屏	李開	魏子	周振	孟靜	張希	李作	高仙	劉興	李比	王少	王伯	王餘	賀新	趙化	李瑞	喬玉	宋西	馬西	武田	劉書	張山	張山	
九、五七七	二、四九〇	二、四九〇	二、四九〇	二、三三〇	二、三三五	一、九五二	一、一五三	一、三六八	九、五九九	六、五八	六、六九七	四、二〇一	一、八三七	三、一九一	三、一〇四	一、一七八	一、七三〇	八、一〇	五、四八	一、三三〇	八、二二	五、四〇	一〇、六一五	二、五五二	二、一五二	二、一五二
七〇、二七八·五五	六〇、六四一·〇〇	五九、〇三五·〇〇	五一、七五〇·〇〇	四七、三一八·〇〇	四六、三七四·〇〇	二九、五〇〇·〇〇	二七、三八四·〇〇	二二、五七三·〇〇	一四、六八八·〇〇	一四、八三一·〇〇	一四、九九二·〇〇	八〇、〇二二·〇〇	三三、九五三·〇〇	四一、五五一·〇〇	五三、八二〇·〇〇	二二、三二六·〇〇	二八、二八〇·〇〇	一九、五六二·〇〇	一一、六四一·三〇	二四、九五五·五五	一八、一〇三·八〇	一一、四九五·六〇	六八、一五一·〇五	二一、六六七·五五	二六、四〇三·七〇	二六、四〇三·七〇
支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店

泰來縣	綏東縣	洮安縣	齊齊哈爾	海盛	三泰	源豐	順和	鴻興	義信	天德	益發	會記	德祥	萃豐	國際	豐盛	仁昌	榮增	中央	益發	瑞慶	萃豐	麗生	益發	國際	義和	豐盛
泰來	綏東	白城子	齊齊哈爾	魏屏	李開	魏子	周振	孟靜	張希	李作	高仙	劉興	李比	王少	王伯	賀新	趙化	李瑞	喬玉	宋西	馬西	武田	劉書	張山	張山	張山	
九、五七七	二、四九〇	二、四九〇	二、四九〇	二、四九〇	二、三三〇	二、三三五	一、九五二	一、一五三	一、三六八	九、五九九	六、五八	六、六九七	四、二〇一	一、八三七	三、一九一	三、一〇四	一、一七八	一、七三〇	八、一〇	五、四八	一、三三〇	八、二二	五、四〇	一〇、六一五	二、五五二	二、一五二	二、一五二
七〇、二七八·五五	六〇、六四一·〇〇	五九、〇三五·〇〇	五一、七五〇·〇〇	四七、三一八·〇〇	四六、三七四·〇〇	二九、五〇〇·〇〇	二七、三八四·〇〇	二二、五七三·〇〇	一四、六八八·〇〇	一四、八三一·〇〇	一四、九九二·〇〇	八〇、〇二二·〇〇	三三、九五三·〇〇	四一、五五一·〇〇	五三、八二〇·〇〇	二二、三二六·〇〇	二八、二八〇·〇〇	一九、五六二·〇〇	一一、六四一·三〇	二四、九五五·五五	一八、一〇三·八〇	一一、四九五·六〇	六八、一五一·〇五	二一、六六七·五五	二六、四〇三·七〇	二六、四〇三·七〇	
支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店

最近海克間鐵道の敷設に依り北安鎮なる都市が産み出されたる爲め將來此處に種々なる經濟機關の整備を見るに至るべきを以て其の際に於ては、交通の利便に恵まれたる同市は當然此の地方に於ける一有力特産取引市場と成り相當各方面よりの、貨物搬出を見るに至るべし。

克山縣

本縣内には北滿特産市場として著名なる克山、泰安鎮の兩市を有する關係上、附近六縣の特産物にして本縣に集中せらるるもの極めて多し。

一、克山

德都、龍鎮、北興鎮よりの集中特産物多し

二、泰安鎮

拜泉、明水、依安、富裕等より集中せらるる特産物多し

而して本縣産出の特産物も亦相場其の他の關係より海倫或は安達方面に搬出せらるること尠からず。

訥河縣

本縣内に於ける特産物の唯一集散地は其の交通の利便なる拉哈とせられ居りたるも、昨年十二月一日より訥河迄鐵道延長せられたる爲め其の一部は訥河に向ひ同地より他に輪移出を見ることと成り其の集散經路に一變革を來せり。

一、訥河

嫩江、布西、其他縣内特産地

二、拉哈

布西、甘南、其他縣内特産地

龍江縣

齊々 哈爾

昂々 溪

富拉爾基

の三箇所にして、尙左記の系路は相場乃至運賃其他特殊關係に因り變更を見るを常とす。

齊齊 哈爾

甘南 富裕 林甸 泰康

昂々 溪

景星、泰康、龍江

富拉爾基

景星、甘南

泰來縣

江橋、泰來の二集散地を有す

一、江橋

大同二年夏三姓、佳木斯、富錦等の特産品は河川を利用して當地に來り洮昂、四洮線を經由、大連其他に輸出せられたるも康徳元年度は拉濱線開通の結果大同二年夏の如き出廻は杜絶するに至るべし。

二、泰來

五棵樹、大平莊、小鄭家屯、塔子城、拉哈、大八岱の特産物當地に搬出さる。

鎮東縣

本縣内並其の勢力圏内の各地よりの特産物は主として

一、鎮東

柳家園子、三棵樹、寶塔

二、東屏

三棵樹、五棵樹

に入るを普通とす。

洮安縣

本縣内に於ける特産物は、交通、相場其の他の關係上、洮南等に搬出せらるるものありと雖もその部分は白城子に向つて搬出せらるるを常態とす。

白城子

路家段、高平鎮、柳家園子、三十戸、寶塔より入るもの多し。

洮南縣

洮南に集中せらるる特産物は其の交通勢力圏内に在る各地方部落より入るもの多く、相場其の他の關係に依り他に搬出せらるるよりも有利なるときは突泉、洮安の一部、安廣各縣の貨物が洮南に向ひ搬出せらるることあり。

開通縣

本縣内に於ける特産物市場は開通、邊昭の兩地にして、開通へ向けての搬出數量は最も多く邊昭へば開通の一〇%見當の搬出を見るものの如し。

開通

乾安縣、安廣縣西南部地域、瞻榆縣の一部、縣内各地

邊昭

乾安縣、瞻榆縣の一部、縣内各地

遼源縣

縣内に於ける主なる集散地は鄭家屯、太平川、茂林、衛門臺等にして鄭家屯には總數量の約五〇%太平川には一五%茂林一〇%衛門屯一〇%其の他一五%程度の集散を見るを常とす。

一、鄭家屯

縣内各地及双山、長嶺縣等の特産物の搬入あり。

二、太平川

瞻榆、乾安地方より搬入せらるるもの多し。

三、衛門臺

天合屯、沙富棚、趙家窩棚火犁公司、十付犁杖、王家窩棚、楊家棚、十八號地、二十號等より搬出せらるるもの多し

四、茂林

長嶺及西河より集るもの多し

昌圖縣

金家屯

亮中橋

通江口

實力鎮

右は滿鐵昌圖驛へ輸送せらる。

鷲路樹、大窪、榆樹

右は滿鐵双廟子に搬出せらる。

大窪、付家園

舊四洮線八面城に搬出せらる。

右は以上は單に道路乃至は其の距離的關係より以上の如き搬出經路を取るものなるが、其の他にも相場の如何或は各地特産商の活動の如何に依りては其の搬出經路に非常な變動を見る事を常とす。

梨 樹 縣

一、四平街

遼源、梨樹、昌圖、双山諸縣のものは其の特産各機關の完備せる爲め相場關係に就ても幾分高値に買付けらるるを以て最も多く當地に向つて集中し來るを常態とす。

二、三江口

梨樹縣第八區、昌圖縣西北部遼河寄り地方及遼源縣東南地域

三、双廟子

伊通縣小城子、四臺子を中心とする各地及梨樹縣第三區、四區、五區、一區の一部等より集るもの多し、

旅 館

沿線地方は人口稀薄にして且各地相互間の往來比較的少かりし關係上旅館業發展せず。

一、滿洲方面

齊々哈爾其の他一、二の市街を除き諸々なる用務を帯びて各都市に來集せる地方人士は、其の取引先又は知人、馬車、宿等に宿泊するを常とし、旅館を利用する事少なき爲め自然的に各地共旅館らしき旅館を有せず

二、日本方面

事變前に於ては、江省は殆ど日本人の入境を阻止するが如き態度を持し居りたる爲め旅館は勿論齊々哈爾其以外の地に於ては其の在留邦人の影さへ有せざる状態なり。一方奉天省の各縣に於ても洮南、鄭家屯兩地の外は在留邦人絶無にて旅館は兩地に各一軒を有したるに止まれり。然るに事變後に於ける當路沿線地方に於て日本人勢力の進展に伴ひ次第、に其の數を増し、克山、訥河、洮安、王爺廟、北安鎮等に旅館の開業を爲すものを生じ、他の齊々哈爾、昂昂溪、洮南、鄭家屯等に於ても數軒の新規開業者を生じ且何れも非常なる繁昌を來すに至りたり。

雖然之等旅館の大部分は舊滿人家屋を改造せるものみにて、設備其の他は日本或は南滿都市と對比するときは非常なる懸隔を有す。

日 人 の 部

龍 鎮 縣 (北安鎮)

旅館名	収容力	特 等 宿	一 等 宿	二 等 宿	三 等 宿	室	數	備 考
一力旅館	二四			四〇〇	三・五〇		四室	

齊北平齊沿線經濟事情

日本	四〇			三〇〇	一一室
日滿	二五			三〇〇	八室
北安ホテル	五〇			四〇〇	一七室
大同	一五〇			三〇〇	一三室
龍本旅館	一五〇			三〇〇	五室
美登里	二〇			四〇〇	七室
合計					

克山縣 (克山)

鶴 (津留) 屋	團體	四〇		四〇〇	三層半二室	料理屋兼業ニシテ目下増築中
日の丸旅館		一五		四〇〇	四層八二二層各一室	
普通						

訥河縣 (訥河)

富屋旅館		一〇		五・五〇	七室	一泊一食
訥河館		一二		四・五〇	七室	一泊一食
さきがけ旅館		一〇		三・五〇	三室	一泊一食

龍江縣 (昂々溪)

昂榮旅館	學生	五〇		四・〇〇	日本間四・半二	一泊一食
	普通	三〇		三・〇〇	八	
	學生團體			一・五〇	洋間(板張寢室)四坪三	
					五坪二坪各一室	
					大廣間一〇坪	
					計 一二室	

齊々哈爾市

滿壽屋旅館	學生	四〇		四・五〇	日本間四半、十一疊各一室	一泊一食付
	普通	三〇		三・〇〇	八疊二	
小林旅館	普通	二〇		二・五〇	洋間(板張寢室)四半三、十一疊一	
	學生	三〇		二・五〇	食堂兼大廣間二〇疊一	
					日本間六疊三	
					洋間、五	

龍江飯店		四〇		一〇・〇〇	全部洋間	普通、學生團體ノ相談ニ應ズ
龍沙旅館		四〇		六・〇〇	特等二	
天勝		三五		五・〇〇	一等二	
大丸		三五		四・〇〇	二等二	
日の出		三〇			三等二	
昭和		二〇			一〇疊八疊各二間	
朝日		三〇			六疊六間	
					六疊五半各三間	
					四疊半各四間	
					八疊二間	
					八疊二間	
					十二疊二間	
					六疊二間	
					四疊二間	
					四疊二間	
					八疊二間	
					二疊二間	

第二章 交通運輸及通信

龍江縣 (齊哈爾)

旅館名	所在地	收容能力	宿等	泊等	料等	室數	備考
天成旅館	嫩江春胡同	九〇	一元八角	一元四角	一元	四〇	
東方旅社	戲園子	一五〇	一元八角	一元四角	一元	四二	
新大旅社	龍門大街	一五〇	一元八角	一元四角	一元	三四	
嫩江春旅館	嫩江春胡同	一五〇	一元八角	一元四角	一元	三四	
廣興德	龍門大街	一五〇	一元八角	一元四角	一元	三四	
龍沙旅社	永安街	七〇	一元八角	一元四角	一元	四〇	
卜野旅社	城內	四〇	一元八角	一元四角	一元	一三	
中華旅社	昂溪	六〇	一元八角	一元四角	一元	二六	

泰來縣 (泰來)

旅館名	所在地	收容能力	宿等	泊等	料等	室數	備考
大有客棧	泰來城內	五〇	一元八角	一元四角	一元	四〇	
天泰	橋街	四〇	一元八角	一元四角	一元	二〇	
心樂	橋街	三〇	一元八角	一元四角	一元	一〇	
悅來旅客棧	悅新街	三五	一元八角	一元四角	一元	三三	
安賓	北大街	二五	一元八角	一元四角	一元	三三	

洮安縣 (洮安)

旅館名	所在地	收容能力	宿等	泊等	料等	室數	備考
東興旅社	縣城內	三〇	一元八角	一元四角	一元	五七	

洮南縣 (洮南)

旅館名	所在地	收容能力	宿等	泊等	料等	室數	備考
大同	縣城大昌街	五〇	一元八角	一元四角	一元	二一	
天泰	康樂街	七〇	一元八角	一元四角	一元	一八	
悅來	大昌街	七〇	一元八角	一元四角	一元	二一	
華昌	大昌街	九〇	一元八角	一元四角	一元	二二	
福順	寶華街	九〇	一元八角	一元四角	一元	二二	
新大旅館	康樂街	一〇〇	一元八角	一元四角	一元	二四	

開通縣 (開通)

旅館名	所在地	收容能力	宿等	泊等	料等	室數	備考
利發棧	縣城西大街	三〇	一元八角	一元四角	一元	四四	
景昌客棧	縣城西門外	三五	一元八角	一元四角	一元	四四	

遼源縣

旅館名	所在地	收容能力	宿等	泊等	料等	室數	備考
大通	鄭家屯	二〇	一元八角	一元四角	一元	三六	
天來	鄭家屯	一四	一元八角	一元四角	一元	三五	
四海	鄭家屯	一七	一元八角	一元四角	一元	三五	
富來	鄭家屯	一五	一元八角	一元四角	一元	三五	
悅發	鄭家屯	五六	一元八角	一元四角	一元	一五	
萬發	鄭家屯	二八	一元八角	一元四角	一元	一八	
遠東	鄭家屯	三八	一元八角	一元四角	一元	二〇	
四海	鄭家屯	一〇	一元八角	一元四角	一元	二〇	
西海	鄭家屯	一〇	一元八角	一元四角	一元	二〇	
東合	鄭家屯	一五	一元八角	一元四角	一元	二〇	

昌圖縣(八面城)

何家花店	八面城	一五	普通	一角	二
忠信家	"	一五	"	"	二
楊家	"	二〇	"	"	三
蘇家	"	二五	"	"	三

第五節 齊北・平齊線概況

名稱の變遷

洮南鐵路なる名稱は鐵路總局管下に於ける廢合の行れたる康德元年四月一日に於て生れたるものにして其の以前に於ては

- 1 舊四洮鐵路
- 2 舊洮昂鐵路
- 3 舊洮索鐵路
- 4 舊齊克鐵路

建設沿革

○四鐵路局の名稱に依つて順次呼ばれたり。

- 1 舊四洮鐵路

本路は四平街より鄭家屯を經、洮南に至る幹線及鄭家屯―通遼間の支線とより成る全長四二六杆(營業)標準幅員四呎八吋の鐵道なり、始め四平街―鄭家屯間が民國四年十二月、橫濱正金銀行と支那政府との間に締結せる四鄭鐵路敷設借款日金五百萬圓を以て同六年四月起工翌七年一月より營業を開始し、其の後資金に不足を生じ、七年二月更に日金二百六十萬

圓の短期借款契約を成立せしめたり。

鄭家屯―洮南間は滿鐵との間に日金二千二百萬圓の四洮鐵路借款契約を締結し以前正金の有し居りたる一切の權利を引継ぎ鄭家屯通遼間は民國九年起工同十一年一月竣工。

鄭家屯―洮南間は十一年四月起工十二年十一月竣工茲に全線の開通を見るに至る。

- 2 舊齊昂鐵路

民國十三年三月、奉黑兩省の交通の利便を圖り、文化の向上、産業の開發國防用具の萬全を期せんとする見地より、時の東三省の獨裁者たる張作霖は洮南―昂昂溪間鐵道の敷設を提唱し、同年九月北京に於て滿鐵代表松岡洋右と張作霖及奉天省長王永江との間に之が鐵道建設工事請負契約を締結を見た。

建設請負金額 一二、九二〇、〇〇〇圓

然して民國十四年三月一日當時の四洮鐵路局長盧景貴を洮昂鐵路局長に兼任を命じ、四平街に總局を開設、同五月測量に着手十月更に總局を洮南に移し、十五年七月十日洮南―昂昂溪間二二四・二四杆の開通を見た。

然るに其の後滿鐵との間に工事其他に付き種々なる爭議を生じ、事變前に及びたるが滿洲國成立と同時に國有となり本問題は自然解消するに至りたり。

- 3 舊齊克鐵路

民國十七年春當時の北京交通部の提唱に依り、江省の開發と洮昂鐵路の發展助長の目的を以て、齊々哈爾―克山間の鐵道敷設に付き國務院の議決を得たるを以て民國十七年より二十年に至る間に舊北寧鐵路、吳大興堂、交通部、江省公署、克山此泰安鎮農會、奉天省公署、廣信公司、訥河縣公署より合計六、五三六、〇〇〇元及他路への支拂運賃其他を流用して建設費一一、〇〇〇、〇〇〇元を以て延長二三〇杆の建設を敢行し事變の直後より更に克山、北安、拉哈、訥河間延長線を敷設今日に至る。

4 舊洮索鐵路

民國十七年奉天省當局は裁兵の目的を圓滿に達せん爲め蒙古地方の荒地の開墾を敢行することとなり鄒作華を督辦に任じ同年十一月興安屯墾公署を洮安に設け其の目的を達成する爲め、官辦洮索鐵路工程局を組織し、洮安—蒙倫間二一〇軒の鐵道敷設を爲すに至りたり。

資本金三百三十萬元、已投資額百六十萬元（一九三一年現在）
民國十八年九月起工

二十年一月懷遠鎮迄開通

營業狀況

當路の北半は滿洲國の寶庫にして面積廣潤、土地肥沃の良野を其の背後地に有する關係上其の業績極めて良好である。

- 一、南支方面に於ける對日滿感情の好轉に依る滿洲特産物の買氣勃興
 - 二、獨乙其の他各國に於ける工業原料たる大豆輸入制の撤廢或は取締の緩和
- 等の幾分たりとも情勢の變化を來すに於ては、當特産物相場の高騰を見、其の出廻激増し且つ農民は富み購買力は漸次上向すべきに付當路に於ける業績は益々上るものと見られ、國鐵四線中最良の業績を擧げ得るものと見られて居る。

一、旅客運輸の狀況

本路に於ける旅客運輸の狀況は民國十九年を最高として二十年、大同元年と低下せしも右は事變の影響に引續く匪害、水害に因るものにして其の後大同二年、康德元年と漸増の趨勢を示すに至りたり康德元年四月以降七月迄を前年同期に對比すれば

大同二年(四ヶ月分)	四一九、二〇九人	八八〇、二〇四圓
入	員	收
入	員	入

康德元年(四ヶ月分)三七九、一四三人 九一六、一六四圓

比 較 (一四〇、〇六六人) (十三六、一九六圓)

元年の人数は三七九、一四三にして前年に比し約四萬人を減じ、收入は九一六、一六四圓にして前年に比し約三萬六千圓を増加し居るも、此の原因は地方の疲弊、水害等の爲短距離旅客著しく減少し之に代ふるに建設工事其の他諸工事に従事する工入團體の増加、日人旅客の増加等比較的長距離旅客の増加に因るものなり。

本路の性質上遊覽團體の増加は、今後も期待し得ざるも地方治安の恢復と相俟て地方的旅客の増加、奥地方方面の開発に伴ふ工人の往來、手小荷物の輸送は次第に増加するに至らん。

二、貨物運輸の狀況

本路に於ける貨物運輸は南行五二%、北行四八%の割合にて、目下の處は比較的片荷とならず好調なるも、之は北黑線、洮索線の延長工事材料及軍關係其の他の建設材料の輸送旺盛に依るものにて、之等終了の曉に於ては其の比率は著しく變化すべし貨物輸送の數量は大同元年度を最高として二年度は水害、匪害、農作物の世界的安値に災されて約一割減少したるも、康德元年四月以降七月末迄分を見るに、四月、五月は昨年比し減收となり、六月、七月に入りて稍恢復し、四箇月にて收入四、八四三、二二一圓にして前年に比し、四十一萬圓餘の減收を示したり。

康德元年度自四月至七月貨物收入前年同期比較表 (單位圓)

年別	月	康德元年度		大同二年度		增	減
		元	度	元	度		
四	月	一,一九五,八二〇		一,七〇八,二八一		(-)	五二,四六一
五	月	一,〇九六,九六〇		一,二四九,七九六		(-)	一五二,八三六
六	月	一,一八二,一九五		一,一〇一,三一六		(+)	八〇,七八九
七	月	一,三六八,二四六		一,一九四,三六〇		(+)	一七三,八八六
計	計	四,八四三,二二一		五,一三三,七五三		(-)	四一〇,五三二

主なる原因は昨年同期は舊制度に依り本路工事用材料秤應一錢乃至六厘にて、其の應數約三十萬應運賃約十萬圓ありたるが、本年は經費支辦に依るもの無償となりたることと、大同二年四月、五月は新線建設材料及軍其の他の建築材料の輸送旺盛なりしも、本年度は夫等が一段落せしと、輸送距離の短縮の結果なり尙六月、七月にて増加せしは六月の官用品が四萬二千餘應に達したると七月に入りて相場好轉に伴ふ奥地在貨の荷動き旺盛及江橋揚げ河豆の輸送開始され、營業品のみにて六萬四千應以上輸送せしことに起因す。

四平街—洮南間歷年營業成績概況表

年別	人	進客		進貨		進款合計	平均進款	記	事
		人	款	噸	款				
民國七年	旅	一八三,五三三	一,〇三三,三三三	三〇八,八四〇	三,〇八〇,〇〇〇	五,一〇三,三三三	三・八		
八年	員	二〇九,四七三	一,〇九六,九六〇	四〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	五,〇九三,九六〇	三・九		
九年	旅	二四八,八八〇	一,一八二,一九五	四四〇,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	五,二八二,一九五	四・〇		
十年	員	二四八,八八〇	一,一八二,一九五	四四〇,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	五,二八二,一九五	四・〇		
十一年	旅	二八五,九四五	一,三六八,二四六	五〇〇,〇〇〇	三,二〇〇,〇〇〇	五,五六八,二四六	四・一		
十二年	員	二八五,九四五	一,三六八,二四六	五〇〇,〇〇〇	三,二〇〇,〇〇〇	五,五六八,二四六	四・一		
十三年	旅	三〇四,三三三	一,四八二,二二一	五三〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇	五,七八二,二二一	四・二		

年別	人	進客		進貨		進款合計	平均進款	記	事
		人	款	噸	款				
十四年	旅	三六九,四〇〇	一,七〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	三,四〇〇,〇〇〇	六,一〇〇,〇〇〇	四・三		
十五年	員	三六九,四〇〇	一,七〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	三,四〇〇,〇〇〇	六,一〇〇,〇〇〇	四・三		
十六年	旅	三七一,四〇〇	一,六〇〇,〇〇〇	五八〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇	五,九〇〇,〇〇〇	四・四		
十七年	員	三七一,四〇〇	一,六〇〇,〇〇〇	五八〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇	五,九〇〇,〇〇〇	四・四		
十八年	旅	三九〇,〇〇〇	一,七〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	三,四〇〇,〇〇〇	六,一〇〇,〇〇〇	四・五		
十九年	員	三九〇,〇〇〇	一,七〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	三,四〇〇,〇〇〇	六,一〇〇,〇〇〇	四・五		
二十年	旅	四〇〇,〇〇〇	一,八〇〇,〇〇〇	六二〇,〇〇〇	三,五〇〇,〇〇〇	六,三〇〇,〇〇〇	四・六		
大同元年	員	四〇〇,〇〇〇	一,八〇〇,〇〇〇	六二〇,〇〇〇	三,五〇〇,〇〇〇	六,三〇〇,〇〇〇	四・六		
合計	計	八,五〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	一,三〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇	四・五		

洮南—齊々哈爾間歷年營業成績概況表

年別	人	進客		進貨		進款合計	平均進款	記	事
		人	款	噸	款				
十四年	旅	二二八,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	三・九		
十五年	員	二二八,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	三・九		
十六年	旅	二二八,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	三・九		
十七年	員	二二八,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	三・九		
十八年	旅	二二八,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	三・九		
十九年	員	二二八,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	三・九		
二十年	旅	二二八,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	三・九		
大同元年	員	二二八,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	三・九		
合計	計	二,二八〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	三・九		

齊々哈爾—克山間歷年營業成績概況表

年別	種別	人	旅	員	收	客	入	貨	物	收	入	收入合計	平均	日	均	收	入	記	事
十七年		三,二六八			二,七四九			一,五二五		一,一〇一		三,七六六	四・五						
十八年		四,六九八			六,一八〇			九,二二五		九,九〇六		一六,一八六	二一・四						
十九年		三,四六七			三,六〇三			三,一〇〇		九,九〇六		一七,七九二	二二・元						
二十年		二,四七五			三,〇四三			八,七四五		二,三七九		一五,一七三	三三・〇						
大同元年		三,〇八〇			三,一四五			八,四八三		二,二四九		一五,七三二	三九・〇						
大同二年		四,九一〇			一,二二九			一,〇四二		二,二〇〇		一〇,〇六二	二九・九						
合計		一,二八三			二,四五八			三,三三九		七,〇〇〇		一〇,三三九	三〇・八						

洮南—懷遠鎮間歷年營業成績概況表

年別	種別	人	旅	員	收	客	入	貨	物	收	入	收入合計	平均	日	均	收	入	記	事
二十年		三,八五二			三,八九〇			三,〇四四		三,五五〇		六,四九一	二〇・八						
大同元年		一,四七九			一,八四三			一,九九五		二,六三〇		四,八五三	一・四						
合計		七,三〇二			五,七三三			四,九九九		六,一八〇		一一,三四四	三〇・四						

附帶事業

學校

四平街、鄭家屯、太平川、洮南に各扶輪小學校及街基には扶輪小學校分教場あり。
生徒數

右は原則として鐵路従業員の子弟に對して初等教育を施すものにして一般子弟をも希望に依り收容す。
四平街、鄭家屯、洮南各小學校には那人指導員を常置せしむ。
(康徳元年度)

日人	滿人	日人	滿人	日人	滿人	日人	滿人	日人	滿人	日人	滿人	日人	滿人	日人	滿人	日人	滿人	日人	滿人
一六	一	一六	一	一六	一	一六	一	一六	一	一六	一	一六	一	一六	一	一六	一	一六	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

病院

洮南醫院及四平街、鄭家屯の二分醫院、太平川、通遼、齊々哈爾、克山の四診療所、南洮南出張所を設く。
右は鐵路従事員と其の家族に對して診療を爲すものなるが一般外來患者にも希望に依り診療を爲す。
尙各醫院施設現況及大同二年度收支を示せば、

醫院名	設立年月	醫師	事務員	其他	大同二年度收入額	大同二年度支出額
四平街分醫院	民國一三、三、一九	三	一	七	八,五〇七・四九	一三,四〇〇・一五
鄭家屯	一四、九、二四	一	一	五	八八三・七九	四,六九〇・八〇
太平川	一三、九、二八	一	一	五	一,一七二・五九	四,二八九・六五
南洮南出張所	一三、九、二六	一	一	六	六九〇・〇五	四,三九三・八七
通遼分醫院	一四、一、二一	一	一	六	六一〇・八九	七,六九二・九七
洮南醫院	一八、八	一	一	六	一一,九四三・二一	一〇,三六四・一九
齊々哈爾分醫院	二〇、四	一	一	五		
克山分醫院	二二、四	一	一	五		

但し收支は大同二年一月より同十二月迄

苗

四平街、衙門台、南洮南、齊々哈爾の四苗圃、四平街、洮南の二温室及び白城子造林場を設く。尙康德元年度に於て白城子種羊場を開設準備中、之が事業上、計上豫算約五〇、〇〇〇圓

自動車

洮南鐵路局に於ては訥河—大黒河、懷遠鎮—索倫間乗合自動車營業を康德元年に入り夫々開始したり。乍然同自動車道路は何れも地勢其の他の關係上道路極めて不良にて夏季降雨期に際會すれば其の運行殆ど不可能となり、其の運輸能率を阻害する事甚だし。

線別貨物、旅客、輸送成績

訥黑線

扱種別	四	五	六	七	合	計
旅客人員	六四〇	八六	二九	〇	〇	七五二
貨物噸數	五五、二四〇	七、二二〇	四、二二五	〇	〇	六六、五七五
旅客運賃	六、一七六	二九六	一六〇	〇	〇	六、六三二
貨物運賃	二、二五二	三七一	九八	〇	〇	二、七二二
合計	八、四二八	七七七	二五八	〇	〇	九、四六三

興安線

扱種別	四	五	六	七	合	計
旅客人員	五二〇	二、二一五	一、一〇二	三三五	一、九三九	一、九三九
貨物噸數	二、二一五	六九一	一、三三二	一〇、五三二	一九、一五三	一九、一五三
旅客運賃	六九一	一一三	一、〇四四	四九九	二、四七二	二、四七二
貨物運賃	八一四	一、五九一	二、三六六	六二七	一、三三五	一、三三五
合計	八、四二八	一、五九一	二、六二四	六二七	一三、二七〇	一三、二七〇

第三章 商工業及金融

第一節 商業

商業概況

住民の殆ど九〇パーセントが農民なる關係上、農民の消長は直接間接其の商業に甚大なる影響を與ふるを常態とす。

然るに滿洲國農産物の大宗を占むる大豆は左記の原因により其の捌口を著しく失ひたり、

- 一 海外に於ける銀高
- 二 獨乙の原料品輸入制限
- 三 獨勃間大豆染料交易
- 四 南支方面に於ける對日滿感情釋然たらざるが爲めの需要減
- 五 日本内地に於ける肥料界の發展に依る

滿洲大豆の需要減退の原因が、直間接に加重せらるゝに至つた爲め、特産界の慘狀は大正四年以來の記録的安値を來し生産原價を割り、事變以來の水災、匪禍の爲め窮迫線上に在り更に斯る經濟的危難に逢着したるを以て、奥地一帶鄉村は疲弊困憊の極地に達し、前途に一大危機を孕むと云ふ状態を呈するに至りたり。

因て農民の購買力は殆ど半減され、商品の賣行停止の必然的結果として、各地都市に於ける農民相手の商賣は極度の不況裡に蹴落されて休業、倒産者相次ぎ未曾有の恐慌を出現せり。

これに對して滿洲國政府は事重大として何等善後策を施さずば建國の礎に動搖を來し、如何なる不祥事を惹起するやも計られず、爲めに政府は中銀を通じて之が救済の一助として春耕資金を貸與せり。その他金融會社或は最近に於ては日滿實業協會の大連協議、續て滿鐵の特産對策委員會の設置となり、更に滿洲國協和會は農村振興の具體研究を開始する等、日滿朝野を擧げて此の農村不況の救に奔走したると歐洲市場に於ける「ストック」の漸動を見、買氣漸く動くに至り幾分好轉の光明を見出すに至る。然るに解氷期以來滿洲國各地に於ける經濟界の發展に伴ひ、建設と鐵道敷設工事の急激なる進行と人爲的救済策の效果其他に依り、農村恢復の曙光見へ幾分の購買力の増加と共に商況次第に活潑を呈するに至りたり。乍然特産物の相場下落が不況の根本原因なれば、若し此の點を除却するに非ざれば、商況の全面的な好轉は豫想し得られず。

各縣商況

龍鎮縣

商況

本縣に於ける商業の中心を成す北安鎮は北黑線敷設起工當時に在りては戸數僅に四、五〇を算する一村落到過ぎざりしが、鐵道の敷設と皇軍の移駐とは、土木關係者並一般商人の往來の頻繁を加へ、激急に其の人口を増加し人口三千に近き本縣唯一の經濟都市を形成するに至りたり。依て従前は舊縣城の在りたる龍鎮が縣の中央に位し、商品の調達地としての使命を果し居りたるが、海克線の鐵道敷設開通の今日に於ては、其の交通の利便なる關係より本縣に於ける商業の中心は完全に北安鎮に移るに至れり。乍然當地は近東に海倫、西に克山の如き交通の利便多く多年努力開拓せられたる北滿著名の都市を有し、且つ其の背後地に

は當縣より以上の商品の需要と、特産物の供給地とを有するに反し、北安鎮は單なる鐵道敷設に依り今日の如き人口の集中を來したるのみにて、其の附近に或は他縣克山、海倫等に比し、商品の需要地、特産物の豊富なる供給地を有せざる爲め、今後に於て大なる商業都市としての發展は望み得られざる状態に在り。

主要商品

當地の主たる特産物は大豆、高粱、小麥、大麥、谷子、包米等にして、其の大部分縣外に輸出し、其の代償として生地加工綿布を初め絹織物、毛織物、ホーロー鐵器、アルミ器具、陶磁器、硝子器を主とし其の外化粧品、文具類、皮革製品等を購入しつゝあり。

而して之等輸入品の大部分は日本商品にして蘇聯、支那其他外國品は其の數量極めて微々たるものなり。

取引状態

仕入は主として齊々哈爾、克山等より當地商舖の出張或は注文に依り調達せらるゝを普通とし、直接大連、奉天等の大商店と取引を爲す者殆ど無し。

而して其の代金の支拂の如きも純然たる舊支那式に依り節拂決済方法に依る者多く、現金取引を爲す者は極めて少し。

輪移入経路

舊來當縣内に入る各種商品は克山、泰安方面より多數入込み居りたるも海—克、北—克間鐵道の開通は新に(一)大連—馬船口中繼—北安(二)大連—齊々哈爾中繼—北安鎮の新輪移入経路を生じたり。

而して輪移入數量は大體

一、齊々哈爾、克山、泰安

總輪移入の一二%程度

二、大連、四平街、奉天(齊々哈爾經由)

- 約二五%程度
- 三、馬船口、海倫 約一五%程度
- 四、大連、奉天、新京 約三〇%程度
- 五、其他 約一八%程度

目下の情勢よりすれば哈市經由と齊市經由とは殆ど其の數を同じくす。

克山縣

商況

當地方に於ける主たる農産物は大豆、黍、高粱、大麥、小麥等にして農民は之を克山、泰安兩城市に於て賣放つと共に、生地加工綿布、雜貨、食料品各種其他必要品の調達を爲し居るを以て、特産物相場の騰落は直接甚大なる影響を市面に及ぼすを常態とす。

然るに本年度に於ける特産物は、外國に於ける需要の減少せると、大連市場に於ける大手筋思惑買對抗する強力なる商業機關を有せざりし爲め、其の相場は北滿市場開設以來の大暴落し、爲に縣民の購買力は低度に減退し、舊正に際しても諸商品の購入は殆ど常時の半にも進まざりし爲め、市面は殊の外沈滞不振を極むるに至りたり。

主要商品(大同二年中)泰安鎮

食鹽	一、四〇五廳
メリケン粉	一、〇〇九、

蔬菜鮮果	七五八廳
雜貨	三六四、
棉花	三三四、
綿糸	一二四、
煙草	一、四六一、
麻袋	一三三、
食料品	一八八、
金物	
鐵材	

取引狀況

本縣克山、泰安鎮等の卸商は主として齊、哈爾、大連、奉天、營口等の諸地方より仕入れ來り之を縣内或は他縣に賣捌くものにして當縣は德都拜泉其他諸縣に於ける商品の一手供給地を成す。

一卸商

舊來よりの深き取引關係を有する者は、節拂に依り代金の支拂を爲すも、其他は主として現金取引に依りて其の商品の賣捌を爲しつゝあり。

二小賣商

卸商との代金決済は現金取引に依り代金の後拂の如きは殆ど皆無なり。

商品輪移入経路

鐵材其他	二五三
雜貨	一〇一
煙草	三七
麻袋	三〇
綿布類	二二
砂糖	一九
蔬菜鮮果	一五
紙品	一四
食料品	一〇
酒類	九
洋火	二

取引状態

本縣拉哈、訥河方面に於ける商業經營者は主として齊々哈爾の滿商より。或は時として奉天、大連等の各關係卸商より商品を入れ之を縣内各地方又は隣接各縣村鎮に供給するを常態とす。其の取引は特殊なるものを除き殆ど現金拂に依るも、關係深き各商店間には節拂の方法に依り其の代金の決済が行はれつゝあり。

商品轉移入經路

本縣に於ける諸商品は主として拉哈に集中し、此處より各地に供給せられ、或は各地方より來拉せる農民が其の必需品を購

入持歸り居りたる關係上、拉哈は縣内唯一の商品大供給地たるの觀ありしが、大同二年十二月に入り拉哈支線が訥河迄延長せられたる爲め、商品は訥河、拉哈兩地に入り、此處より他地方への供給を見、拉哈の殷盛の一部は必然的に訥河に奪取せらるるに至りたり。

而して同地に入る商品は主として齊齊哈爾次いで北鐵、大連、四平街、營口の諸地方より輪移入せらるるを普通とす。

一、木 材

昂々溪、齊々哈爾、北安鎮、葛根廟、嫩江上流地方よりの用材多し。

二、鐵材其他鐵器類

齊々哈爾より入るものを第一とし之に次いで大連、四平街地方よりの物多し。

三、雜 貨

齊々哈爾を主位に大連、北鐵(哈市)方面より入る物之に次ぐ。

四、煙 草

齊々哈爾、北鐵、營口、奉天

五、麻 袋

大連を主位に齊々哈爾、泰安地方より入る。

六、生地綿布

大連、奉天、營口、北鐵、齊々哈爾等よりの入荷最多く殊に大連よりの數量多し。

七、砂 糖

殆ど大部分は齊々哈爾より入荷のものなり。

八、蔬菜果物

第三章 商工業及金融

齊北、平齊沿線經濟事情

蔬菜は四洮、洮昂沿線、鮮果の齊々哈爾商人の手を経て日本内地物多く輸入さる。

九、紙

殆ど齊々哈爾より入る。

一〇、食料品

齊々哈爾

一一、酒類

齊々哈爾、洮南、泰來、白城子

一二、洋火

齊々哈爾

齊々哈爾市

商況

齊々哈爾市は従前も江省に於ける政治、交通、軍事の中心地なりし關係上、商工業上見るべきもの無し。雖江省唯一の物資供給地として絶對的な地歩を占め居りたり。

然るに事變後日本軍が當地に常駐すること成りたると、北滿地方に於ける鐵路建設工事、滿洲國各機關の積極的活動を興すに至りたる等の諸現象は、市面に對し非常なる活氣を興へ、經濟界は非常なる躍進を見、地方的なりし當地は、斷然全國的と成り、名實共に新京、奉天、吉林と對等の地歩を占むるに至れり。

今軍、滿洲國官廳より現金にて當地に落さるゝ金額を概算すれば

我軍の支出する分 月額約 六十萬圓
省公署關係費用 同 二十萬圓

滿洲國軍隊經費 同 七十萬圓

主要商品

當地に於ける商品取引年額は約三百萬圓見當にして、其の六割乃至七割迄は邦品、その他三―四割は蘇聯、支那、他外國製品と見做し居り其の主なる商品及輸入數量を示せば次の如し。

(自大同二年一月至同年十一月)

石	炭	三〇、四六二
石	油	七二八
鮮果、蔬菜		四、〇二二
木	材	二六、一七〇
鐵板其ノ他鐵材		九、七七二
洋	麵	八、七四二
食料		一、〇一九
食	品	三、〇四一
食	鹽	一、一九三
糖		一、五二二
酒		三二六
綿	糸	七九四
雜	貨	五二二
麻	袋	六三一
紙	寸	五八
紙	煙	二〇九

取引狀況 滿洲國商人は直接大阪乃至東京方面に店員を出張せしめ、或は同諸地方に存在せる仲介支那人の手を経るが如き方法に據る

事無く大連、奉天、新京等の日本又は滿洲國卸商より仕入を爲すを普通とし、日本側に對しては主として現金に依り滿人相互間に於ける取引に在りては節拂を普通とす。尙蘇聯商品は哈市卸商或は北鐵商業代辦處の手を經年額三十餘萬元程度の輸入を見つつあり。

移入經路

移入の大部分が日本品なる關係上日本人の絶對的勢力を占め居る新京、大連、奉天、營口等の南滿各都市より發送せらるゝもの極めて多し。

今主要商品中其の主なる發送地を示せば、

一、石 炭

殆ど大部分撫順より輸送し來り其の他本溪湖物も皆無には非ざれ共其の量極めて少し。

二、石 油

其の大部分大連、奉天より輸送し來るものにして、蘇聯品も幾分當市場に見らる。

三、鮮果、蔬菜

鮮果は大連、奉天を經由し來る日本内地物にして奉山沿線より仕向けられ來るものも幾分有り。

蔬菜は洮昂、四洮沿線たる白城子、洮南、八面城よりの物多し。

四、木 材

素材は主として吉林材が新京を經由して輸送し來り、家具其の他家屋內諸材料は大連よりの物多數を占む。

又北鐵或は拉哈方面より燃料其の他用材の入荷するものも尠からず。

五、鐵 材 類

殆ど大部分大連よりの物なり。

六、洋 麵

主として大連、奉天、營口

北鐵方面より輸送し來るものも幾分有り。

七、紙

營口最多く大連、奉天、新京、安東之に次ぐ。

八、磷 寸

新京よりのもの最も多し。

九、煙 草

奉天、營口最多く北鐵より蘇聯製品幾分市場に上る。

奉 天 縣

商 況

當地方唯一の産物並製品たる大豆、豆粕の外國に於ける需要の杜絶狀態は相場場の暴落を來しその結果は一、小農民の購買力は極度に減退

二、糧棧、油坊等の輸出を主要目的とする營業者は其の買付の手控、或は業務の操短を爲すに至れることは右により經濟界は極度の不振不況、多くは缺損狀態にして休業者尠からず。

主要商品

大同二年中に於て當縣に輪移入されたる主要商品及其の數量左の如し。

洋 麵	一、五七三、三
木 材	八七八、

第三章 商工業及金融

鹽	五二七
鹽袋	四六八
鐵材及鐵器	一九五
蔬菜、鮮果	四七〇
砂糖	一二三
食品	九三
紙	八四
煙草	一〇二
雜貨	一六二
棉花	二九一
綢緞	四〇

取引狀況

當縣商舖は洮南及南滿諸都市たる四平街、奉天、大連、營口等の商店との間に密接なる關係を有し、之等より商品の仕入を爲すを普通とす。而して之等は原則として現金取引を主とするも、又代金後拂の方法に依り其の支拂を爲すこと稀なりとせず。

一、毎月付

月末に相手商人に代金の送付を爲すか或は賣主よりの掛取出張員に支拂を爲す方法。

二、三節拂

端午節、中秋節、舊年に際し支拂を爲す方法。

右の方法を探る者亦相當にあり。

縣城に仕入れられたる商品は、地方廻の小商人の手を経て消費者に供給せらるるか、又は需要者自身に於て來城の都度買付

仕入経路

一、木材

主として北鐵沿綫、江橋、拉哈等より鐵道に依りて當地に輪移入せらる。

二、洋麵

其の大部分は四平街、大連、營口等より輪移入せらる。

三、麻袋

大連より入るもの最多し。

四、鐵材及鐵器

洮南、四平街、奉天、大連より輪移入さるるを普通とす。

五、鹽

營口より入るもの最多し。

六、雜貨

北鐵沿綫、四平街、奉天、洮南等より仕入れ來るもの多量なり。

七、綿糸布綢緞類

奉天、四平街、大連、營口等より入るを普通とす。

八、蔬菜

四洮、洮昂沿綫地方より入る。

九、鮮果

第三章 商工業及金融

- 大連、奉天、四平街、洮南より入るもの多し。
- 一〇、砂糖
- 洮南、四平街、奉天、大連より入るもの多量を占む。
- 一一、陶磁器
- 洮南、奉天より入るもの多し。
- 一二、煙草
- 奉天、營口、洮南、北鐵方面より入る。
- 一三、紙
- 四平街、奉天、大連より轉移し來るもの多し。

鎮東縣

商況

殆ど住民の大部分が農民なるを以て、其の商業の目的對像を農民に置いて營業を爲すの外、特別の目的對像たるべきものを有せざれば農民の購買力及生産品の相場如何は直接其の經營する商業に甚大なる影響を及ぼすを常態とす。元年收穫期以降の相場は暴落に次ぐに暴落を以てしたる爲め、一般農民の購買力は全く失はれ、金錢を以て商品を購入如きは有産農民にのみ限られ、他は殆ど自己の有せる農産物を食して漸く生活を營むに過ぎず。

他方主要商業經營者たる糧棧、油房等も其の相場の暴落の爲直接間接に非常なる打撃を受け積極的に營業を續行せむとする者無きに依り、之等の諸事情が相互に錯綜し當縣内に於ける商況は不振を極む。

本縣内に於ける商業經營者は資本金一〇〇元以上二〇、内一、〇〇〇元以上三と謂ふ貧弱なる商勢を示すに過ぎず。

主要商品(大同二年中)

當縣に移入せらるる主要貨物と其の數量を示せば、

メリケン粉	三三〇〇
麻袋	一六五
食料品	六五
蔬菜、鮮果	八一
鐵材及鐵器	七一
綿糸布	五二
鹽	四五
砂糖	三三
雜貨	三九
紙	二二
酒	二一
磁器、陶器	一八
煙草	一四
燐寸	一〇

取引狀況

直接洮南、四平街其他各重要都市卸商との取引に依り貨物を仕入れ縣内地方農民に供給す、而して供給及仕入方法は

- 一、地方の村鎮に行くことなく、大部は貨物の賣捌に來城せる農民の求に應じ之を供給するを普通とす。
- 二、仕入に對しては洮南邊の卸商よりは從來の特殊關係を利用し通信機關を應用する註文の方法を執ることあるも、他は總て出張仕入を普通とし代金支拂は殆ど現金に依りて決済を見つゝあり。

搬入経路

當縣内商業の中軸を成す鎮東商人は其の取扱貨物の少き爲め殆ど全部は洮南より之を仕入れ大連、奉天其他遠距離都市よ

りの仕入少し。

一、鐵材、鐵器類

主として洮南、其他大連、奉天より入るものもあり。

二、陶磁器

洮南より入るもの最多し。

三、メリケン粉

洮南、鐵嶺、開原、大連等より入るもの多し。

四、食料品

殆ど洮南より入る。

五、砂糖

洮南、四平街

六、雜貨

四平街、洮南より入るもの多し。

七、綿布生地

洮南、四平街、營口等より入る。

八、麻袋

大連、克山、洮南、開原等より入る。

九、紙

洮南より入るもの最多し。

一〇、漆

主として洮南

一一、煙草

洮南より

洮安縣

商況

特産物相場の下落は一般農民の收入に一大痛棒を與へ、其の購買力の激減を見るに至りたる爲め農民を唯一の客とする當地商業經營者は營業成績不振を來し、缺損に不堪休業或は倒産者を生じ其の商況は極めて芳しからざる状態に在り。尙當地方は土地豊饒ならず、従つて人口少く需要販路狭小なる爲め其の營業の組織も極めて小く、商業營業者一三二軒中

一、〇〇〇元以上のもの十二、他は總て其れ以下の小商業者たると云ふ幼稚を極むる現状に在り。乍然當地は洮安線の延長或は新京―大賚線―の洮安間の完成の曉に於ては交通三叉路となり、諸經濟機關其他の移轉と人口の集中とを來し従つて將來の市面殷盛を豫想せられ現に洮安に向つて日本商人進出を見つゝあり。

主要商品

當縣内に輸移入せらるる主要なる商品は

(大同二年中)

綢緞、綿布	一六一萬
木材	九五九、
鐵器	七三、
洋麵	七五七、

第三章 商工業及金融

鹽	一一五
砂	七〇
糖	三二
草	一四
寸	四八
鮮果	四七五
鮮果	八一
雜貨	八一
食料品	四一

一度鐵道に依り白城子（洮安）に輪移入られたる物が、必需品を求めて白城子に出で來たりたる地方住民の手に依り、夫々各奥地方に向つて搬出せらるゝを常とす。

然して當縣は鄰接區域に洮南市を有する關係上、或るものは其の距離と價格の點より同地を有利且つ利便とする住民も相當あり、従つて直接同城市より仕入消費する者を有するに依り、白城子の商業市場の地位は洮南の存在に依り其の價值を半減され居る現況に在り。乍然洮索線の延長、新京—白城子間の鐵道が着手され且つ其の開通の曉は交通の中心が同地に移り、此處に各般の商業機關の出現を見るに至るべく、若し其の新情勢が進捗するに至れば、洮南の殷盛は必然の結果として近き將來に同地に奪ひ去らるゝものと云はれて居る。

取引狀況

商品は近き市場洮南遠き市場新京、奉天、大連等より仕入れらるゝものにして、仕入方法は特殊關係を有する者の外は殆ど全部現金に依り決済が行はるゝと云ふも、洮南の卸商との間は其の身元の明かなると、關係の密接なる爲め、卸拂の方法に依り代金の決済が行るゝを普通とす。

輪移入經路

洮南より移入するもの最も多く、他は大連、奉天、安東、新京、營口等の諸地より仕入せらるゝものにして、殆ど全部は日

本品と滿洲國內産品たる下級商品なるを常とし、其の人智と文化の程度の低き關係上、高級商品の輪移入少く、此の種に屬するものに綢緞、時計等を僅かに數ふる程度なり。

一、鮮果

一度大連、奉天等を経て洮南の商人より當縣内の轉賣市場に上り消費せらるるを常とす。

二、木材

洮南、鄭家屯、索倫より入荷す。

三、鐵材、鐵器類

洮南、四平街等より入り來るもの多し。

四、白麵

龍江より入るもの最も多く之に次ぐは洮南よりのものなり。

五、食料品

四平街、開原より入るもの最も多し

六、鹽

普蘭店より入るもの多し。

七、糖

四平街、奉天より入る。

八、雜貨

四平街より入るもの多く其れに次ぐは洮南、奉天等なり。

九、綢緞、綿布

其の大部分奉天より入り、之に次ぎ洮南より入るもの多し。

一〇、麻袋

奉天、洮南

一一、紙

洮南より入るもの最も多し。

一二、洋火

洮南、奉天

一三、煙草

奉天、營口

洮南縣

商況

本年度に於ける特産物相場暴落に遭ひて一般農民は其の收入に一大痛棒を受け、購買力は殆ど従前の五〇%減と成りたる爲め、一般商店の賣行の不振、販路の杜絶を來し、大資本を擁する地方糧棧業者に在りても特産物が安値にて殆ど逆轉の狀態を示し、且つ將來高値を來すべき何等の材料をも有せざる今日、進んで思惑買を爲す者無く、之亦營業狀態極めて芳しからず、乍然當縣城には經常的收入を有する滿鐵關係者及駐屯軍隊在りて相當多額の生活費を消費し居る關係上、一部商家は相當惠まれたる状態に在り他都市と其の趣を異す。

主要商品(大同二年中)

綿糸	布	五九〇
石油		六〇

石炭	三、四一
洋麵	五三八
木材	八五八
陶磁器	一七
食料品	一六
雜貨	一四七、五九九
蔬菜、鮮果	六九一
砂糖	一〇二
酒	一六六
燐寸	四六
紙	三二
煙草	九一
鹽	四四八

販路

一度當地卸賣商の手を経たる各種商品は其の經濟的勢力範圍内に位する縣内各地は勿論、舊來よりの取引關係ある奉天、鎮東、洮安、安廣、突泉、札薩克圖旗等の各縣城商舖に對し之等主要商品の一部を供給するを常とす。

購入経路

一、滿洲品

地方住民の文化並生活程度低き爲め高級品を使用する者少く、從て上海方面より的高级品の輸入せらるゝもの多からず。主として大連、奉天、新京等の地方製品の使用最も多し。

二、日本品

日本品は低廉にして體裁好く從て一般の需要多し。

而して之等商品は、

- 1 大阪河口に於ける華商の手を經、或は直接日本商人より取引するもの
 - 2 大連、奉天、營口等の滿人卸商より購入するもの
 - 3 當地滿蒙貿易館等より購入するもの（其の量極めて少し）
- 等に依り仕入はれつあり。

日本品の將來

日本品の殆ど全部及綿布、モス、人絹等は相當日本商品の割込む餘地を存するも現在日本内地或は上海方面に於ける如き高級品より寧ろ普通下級品にて、且つ價格低廉なものを中間商人の手を經ず、或は其の回数を少くし賣擴むるに於ては、相當地方的に確固たる販路を開拓し得べしと信ぜらる。尙織物類の色合或は縞柄等に注意を拂ひ地方住民の嗜好に合致する様特殊の研究も亦必要なり。

例へば「モス」にしても其の色合、柄合は舊支那人の嗜好に最も合致し一時相當實行多からむとの期待を掛けられたるに、事實は全然其の豫想を裏切り賣行杜絶せり。

此等の理由を調査するに、元來舊支那人の織物は、背部其の他縫目箇所に於て其の縞なり柄なりは、必ず一致し居るに反し日本製品は其の點を全然考慮に置かざりし爲め、舊支那人の嗜好に反すること發見せられ、其の買付氣分喪失の原因を明かにしたる事例あり。

日本向商品

日本向食料品或は織物、日用品等に就ては當地方に何等適當なるものを有せざれども絨毯及牛肉類の相當望を囑し得るものと思料せらる。

一、絨毯

事變前に於ては原料を蒙地より買付け各戸副業として盛んに製造を見たるが、現在に於て原料の補給つかざる爲め、殆ど休止状態に立ち居りたり。

乍然地方の治安にして完全に保たれ、地方住民其の居に安ずるに於ては、従前の如く當地に向つて原料の集中を見るべく、斯かる情勢の生ずるに於ては斯業は再び活況を呈するに至るべし。

二、牛 肉

嘗て滿鐵の傍系會社に滿蒙冷蔵會社ありて蒙古牛の内地輸出を計畫せることありしも、冷蔵装置其の他取扱方法不完全なりし爲め、豫期の成績を擧げ得ずして失敗に終りたるも、若し何等かの方法に依りて當地背後地方の牛を南滿或は内地方面に生肉の儘或は罐詰として輸出するに於ては相當期待を以て見るを得べし。

關 通 縣

商 況

住民の約八〇%が農民にて此の農民を中心として經濟社會を構成せる當地方に在りては、其の唯一の收入源たる、特産物の海外に於ける需要激減を動因として生じたる相場の大暴落は、さなきだに窮迫のドン底に在る農民に對し更に其の收入を半減せしむる如き打撃を與へたる爲め、彼等の購買力は極度に減退し、從て之を相手とする各商舖の需要杜絶に達着せる結果、其の營業は全く停頓状態に陥り其の儘にては營業を持続することを得ざる有様なり。

主要商品

自大同二年七月至大同三年二月間の縣内移入數量

石	炭	三、八七五
麥	粉	六五、〇〇〇袋
茶	葉	七、二〇〇斤

食鹽	一二〇,〇〇〇
綿布	一五,〇〇〇疋
化粧品	一六〇,〇〇〇箇
藥材	六,〇〇〇斤
卷煙	五〇〇箱 (二〇〇包—一包五〇箇)
燐寸	四〇〇 (二〇〇包—一包一〇箇)
磁器	一二〇,〇〇〇箇
毛織物	一五,〇〇〇疋 (二疋七八尺)
白糖	三〇,〇〇〇斤
紅糖	一〇,〇〇〇
林檎	一八,〇〇〇
密柑	三,〇〇〇
梨	三,〇〇〇
紙	一八〇〇疋 (二疋—九六帖)
木材	一、六〇〇本

取引狀況

當地方輸入せらるゝ商品は高級品少く殆ど下級粗製品其の大部分を占む、而して當地方商人の商品仕入の方法を見るに其の需要の狭小と資力の少きを爲め大口の仕入を爲さず、従て大阪在留滿人の多き淀川口商人、或は神戸方面在留滿商に委託することが便利であるが而も直接取引なく、營口、四平街、奉天等の滿商より小口に仕入るるを普通とし、而して其の滿商人の通商として直接各都市に出向き買付を爲し註文買付は極めて少し。

又其の代金の支拂に就ては現金に依り後拂の如き方法を探る者多からず。

輸移入経路

- 一、茶、食鹽、紙、藥材、白糖、紅糖
殆ど全部營口より搬入するを常とす、
- 二、鮮果
四平街より入るもの最多し。
- 三、綿糸布、毛織物、麥粉
最も散多く大連より移入す。
- 四、木材
殆ど吉林方面より入るを常態とす。
- 五、小間物類、陶磁器、煙草、燐寸
奉天より移入するもの其の大部分を占む。
- 六、石炭
撫順より搬入さる。

商況

特産物相場の暴落は、總人口の約九〇%を占むる農民の購買力を激減せしめたる結果、彼等を唯一の得意とする商人は全然其の商品の捌口を失ひ、爲めに進んで商品の仕入は勿論手持品の處分にも窮し、氣息奄々たる状態に在るを以て、其の儘營業を持続する事を得ず。人員の整理、經費の節約を計り、此の難關を一時切抜けんとする者及苦境に不堪休業乃至は倒産する者多数を生じ、一般に不況の「ドン底」に喘ぎつゝある現状なり。

主要商品

當地に輸入せらるゝ貨物の内(特産物を除く)其の数の最も多きは石炭、麥粉、食鹽、木材、石油、煙草等にて年總額約一、三四八、〇〇〇元其他食料品及各種雜貨類は三五〇、〇〇〇元見當と稱せらる。

取引狀況

當縣の如く商業の發達せざる地方にありては、大口に依る取引の必要も之を爲し得る大商人をも有せざる爲め、滿商は商品の仕入に當り大阪川口在住滿商乃至は東京、横濱、神戸等に於ける邦商に直接注文を爲す事少く、主として四平街、奉天、大連邊の滿人卸商より直接出張買付を爲すを普通とし、特殊なる商品以外は邦商との取引を爲すもの極めて稀なり。而して代金の支拂に就ては現金拂を建前とし後拂方法に依る事少し。乍然日本商との取引は此の主義と方針に依り例外なく行はるゝも滿商相互間に於ては、特殊なる關係を有する場合は節拂(十二月、五月、八月拂)の方法に依ることも皆無に非ず、されど經濟的智識の向上と經濟界の不況の結果は次第に本取引に非常なる危険を伴ふに至りたる爲め、現金に依る取引を歓迎する傾向を生ぜり。

移入經路

- 一、石炭
- 撫順
- 二、石油
- 奉天、大連、營口
- 三、木材
- 新京を經由吉林省より。
- 四、煙草
- 鳳凰城、吉林より來るもの多し。

五、雜貨

主として四平街、大連、奉天

六、麥粉

大連、奉天、營口、新京、四平街、鐵嶺より入るを普通とす。

昌圖縣

商況

特産物の相場暴落の餘波を蒙り、農民は非常なる打撃を受けたるは勿論なれ共、地理的に大連市場に近く運賃少きと、農作物中最も其の收穫數量の多きは粟にして、本品は主として朝鮮に向ひ輸出せらるゝ關係上、大豆相場の如く大暴落を見ざる爲め、北滿各縣農民に比し其の苦境幾分少く、従つて其の購買力に就ては優位にあり、因つて縣内商業の中心地たる昌圖、八面城に於ける商況は不振と稱し乍らも、一般各商人は收支相償ひ得る程度の成績を挙げ居るもの如し。

主要商品

品名	滿鐵昌圖縣より昭和七年度中輸入數量	四洮線八面城より七年度中の輸入數量
石炭	六、七〇〇噸	四、五〇〇噸
洋麵	一、五七六	一、〇五〇
食鹽	一、七二三	
石油	一七八	二四〇
木材	六二〇	一三五
砂糖	一九〇	
綿糸	一三〇	
蔬菜	三三三	
陶磁器	四六	九五

鐵器其ノ他
雜品

四〇〇

九八五

然して之等商品の内殆ど大部分は日本製品にして、之に次ぐは滿洲國內商品其の他外國品は殆ど其の影を見ず。
取引狀態

縣内大商人は大連、奉天、四平街等の商店との間に直取引を行ひ、小商人のみは小商人よりの供給を受け、地方小口需要に商品の供給を爲すを常態とし其の代金決済は左の如し。

1 貨物代金の先拂

(人購)

2 代金後拂

(信購)

3 現金取引

右三種が普通に行はるゝ形式にて、其の内代金後拂は信用あり且つ舊來よりの特殊關係を有する者との間に節拂の方法に依り行はる現金拂は小商人に對する場合或は何等關係なき者との間に行はるるを普通とす。
商品の受渡に要する諸雜費

1 荷造費

2 運賃

3 國稅

1項は賣主、2、3項は買主負擔を原則とす。

移入經路

一石 炭

撫順

二洋 麵

大連を首位に營口、新京之に次ぐ

三食 鹽

主として太平川、蓋平、營口等

四木 材

従前は連絡運輸に依り北鐵よりのもの多數を占めたるも、當今に於て殆ど全部は吉林材なりとす。

五石 油

大連、營口、奉天等

六鮮 果

大連、奉天より内地産品の輸入のみなり。

七陶磁器

大連、奉天もののみなり。

八砂 糖

大連を首位に營口、奉天之に次ぐ。

梨 樹 縣

特産物相場の依然思はしからざる爲め、農民の賣放手控或は其の爲めの收入減等に因る購買力の激減は、輸入商品の荷捌に大支障を來し、一般商人の業績甚だ舉らず、人員の整理、經費節約に依り一時を切抜けむとするの狀態にして新規の需要の起ら

ざる限り當分不振不況裡に終始するを餘儀なくさる。四平街に於ける邦商は、事變後の一般情勢の變化に依り、奥地在留日本人の増加其の他の理由にて、商況幾分從來より好轉せるもの如し。

主要商品(特産物を除く)

輪移入 昭和八年中四平街驛に到着せる數量

鮮魚	一、三三七
生果	二、八二四
蔬菜	一、〇二一
棉花	七五五
燐寸	五〇八
石炭	一〇八、五六四
鹽	三、五三九
麥粉	一、八二一
砂糖	三、三七七
綿糸	二、六五七
木材	一〇、六七二
葉草	一九八
麻袋	六、三九四
紙類	一、七五八
鐵器	二、二一六
酒類	一、〇七八

味噌	四四六
石灰	一、〇五三
セメント	一、五九四
陶器	六八〇
石油	一、九三七

移出 四平街驛よりの發送數量

米	三九三
生果	五五四
棉花	一一六
木材	一〇七
石炭	三七二〇
鹽	一六一
麥粉	一、二四四
砂糖	九四三
綿糸	四九九
麻袋	一、〇六四
紙類	一八三
鐵器	二七五

輪移入經路

主として大連、奉天或は營口等より四平街商人の手により入荷するものにて、只石炭は撫順、木材は新京中繼にて吉林方面より、麥粉は一鄆鐵嶺、新京等より入荷す。

移出經路

四平街より發送せらるゝ移出商品は主として四洮、洮昂、齊克各沿線地方に向ふもの大部分を占む。
主なる發送先

- 一 米
 - 二 生 果
 - 三 棉 花
 - 四 木 炭
 - 五 石 炭
 - 六 鹽
 - 七 麥 粉
 - 八 砂 糖
- 白城子、洮南、泰安鎮、拉哈、克山方面
 龍江、泰來、龍江、泰安鎮方面
 龍江、泰來、白城子、鎮東方面
 龍江
 泰來、江橋、龍江、拉哈、北鐵方面
 泰安鎮、龍江
 白城子、泰來、北鐵、泰安鎮、龍江方面
 白城子、泰來、泰安鎮、拉哈方面

九 麻 袋

白城子、泰來、泰安鎮、拉哈方面

一〇 綿糸布

龍江、泰來、泰安鎮方面

一一 紙 類

龍江

一二 鐵及鐵器

泰東、江橋、龍江

取引狀態

日本商人は主として内地商人との直取引を爲すも、其の他の者は大連或は奉天の卸賣商より買付くるを普通とす。

滿商に在りては奉天、大連等の自己取引滿商或は日商の手を経て日本商品の仕入を爲しつつあるも、最近の如きは有力商人數名共同して日本事情に明るき大阪川口滿商と連絡を取り、大阪商人と直接現金取引を爲す者續出し日本卸商側に一大痛撃を與へたり。

即ち彼等の取引方法を見るに大阪、東京其の他の製造業者又は卸商に於ては、一般經濟不況の餘波を受けて、手持商品の賣行悪く従て價格に於て幾分格安と成るも、此の際買手有れば廉價に賣放ちて新商品の購入、販賣を爲す方が金利其の他の關係上有利なりとする者多きに乗じ現金買付を爲すを以て、内地商人は渡に舟とも稱すべき心情にて、安値とは思ひ乍らも之を手收す者多く従て滿商は手先の在留滿人の手を経て比較的安く仕入し爲すことを得、在滿日本商の一大敵國を形成するに至りたり。然るに當地日本商人は其の需要の殆ど無限とも稱すべき滿人側に對する賣込に、極めて不熱心にて、只僅の日本在留民を相手とする商業を營み勝なる缺點あり。依て當地輸入組合に於ては此の點を改め日本商品の四洮、洮昂、齊克沿線

